

## 第六項 石工業

唐津藩小笠原氏末期ごろの藩内の職人数は、大工百八十八人、木挽<sup>こびき</sup>五十七人、樋師<sup>とがし</sup>、屋根師<sup>やね</sup>合わせて百二人、かわらふき師十一人、カヤ屋根ふき師十三人、石工六十三人がいたという記録がある。（『東松浦郡史』）

このうち石工の数では、秀吉の名護屋築城の折、石工の棟領だった徳永九郎左衛門の系を継ぐ町内値賀川内の石工が一番多かっただろう。文化十一年（一八一四）出来た唐津雄岳山の水野忠光公の墓碑造りに従事した値賀川内石工の数が、四十名とある（『値賀史』）。それほど当時としては、石工業は今村組の大きい産業であった。田畑、屋敷、道路などの石垣作りばかりでなく、墓碑、石橋、狛犬<sup>こまいぬ</sup>、灯ろうなど、すばらしい作品を各地に残している。町史下巻には、この町内石工業の発展の歴史について、現代も含めて詳記することになっている。それには各地に残されている名工の作品や、今は期限満了した玄海町座川内採石場の五十年採石契約などについても、記述する考えている。

## 年表 I

# 地質年代表

古 生 代			
三億 六〇〇万		四億 九〇〇万	
新 期		古 期	
石炭紀	デボン紀	シルル紀 (ゴトランド紀)	オルドビス紀
シダ植物時代		海生藻菌植物時代	
温湿気候と大森林に覆われる。	裸子植物(グロソプリス)出現。フシロフイトン類の繁栄。森林出現。	最古の陸生植物(フシロフイトン類)の出現。	海生藻菌植物発展する。
魚類時代・両生類時代		海生無セキツイ動物時代	
ハ虫類の出現。両生類・昆虫類が繁栄。三葉虫類が衰退。	魚・腕足類が繁栄。原始淡水魚類出現。	最古の陸生動物(サツリ類)出現。床板サンゴが繁栄。	海水魚類(カッチュウ魚)が出現。三葉虫類・頭足類・直角石・床板サンゴ・貝類が発展。
温	温 暖		
地向斜時代			
インド、太平洋地域 大海進。 本州地向斜。		浅海から地向斜へ。 浅海。 海進反復。	

古 生 代		先カンブリア代 (始生代・原生代)	
五億		五億 六四〇〇万	六億
古 期			
オルドビス紀	カンブリア紀		
海生藻菌植物時代			
	海生藻菌植物繁栄する。	海藻類現れる。	
海生無セキツイ動物時代			
	三葉虫・腕足類が発展する。	ワムシ・鉄バクテリア・コリウム	
温 暖			
		水成岩、マグマ活動激烈。水河現象出現。 大規模な海進海退。	

宇宙の誕生……………約一五〇億年前  
地球の誕生……………約四六億年前  
生物の誕生……………約三三億年前

時代区分	生物の変遷(進化)
代 (今から 年数) 紀(世)	植物
	動物
	人類
	地殻変動

参考 「日本考古学小辞典」「理科年表」など

新 生 代					六四〇〇万
五〇〇〇万	二五〇〇万	三六〇〇万	五二五〇万		
第 三 紀					
新第三紀			古第三紀		
鮮新世	中新世	漸新世	始新世	暁新世	
被子植物時代					
ホ乳類・鳥類・貝類時代					
人類出現する。				ホ乳類発展する。	
大陸類人猿(ゴリラ・チンパンジー・オランウータン)と人類が分化。					
寒冷化			温暖		
← 地殻変動			← 古い日本の形成		
← 陸地広く水没			← アルプス造山期		

中 生 代				代	時代区分 (今から前) (およその年数)
四億	八億	二億	八億	紀(世)	
白亜紀	ジュラ紀	トリアス紀 (二疊紀)	ペルム紀 (二疊紀)		
裸子植物時代				植物	生物の変遷(進化)
被子植物広く分布。	裸子植物(ソテツ・イチヨウなど)が繁栄。季節変化現れる。	被子植物が出現。シダ・ソテツ・松柏類が繁栄する。	寒冷・熱帯の気候の急変で生物の衰亡と発展がある。		
ハ虫類・アンモナイト類時代				動物	
現れる。小形原始ホ乳類	アンモナイト類の絶滅。ハ虫類ほとんど滅亡。	鳥類(始祖鳥)出現。ハ虫類・アンモナイト類の繁栄。両生類の衰退。	ハ虫類・アンモナイト類が発展する。		
(恐竜の時代)				人類	
寒		温		氷	
← 造山運動				← 本州造山。	
← 世界的に大海進(白亜紀中期)日高地向斜。日高造山。				← 大陸隆起、大山脈形成。	
← 本州の脊梁部隆起。				← 本州造山。	
← 本州造山。				← 大陸隆起、大山脈形成。	
← 本州造山。				← 大陸隆起、大山脈形成。	

新 生 代				
一 万	九 〇 〇	二 〇 〇	五 〇 〇	四 〇 〇
第 四 紀				
沖積世	洪 積 世 (更新世)			
後 氷 期	後 期		中 期	
	(IV) ウルム氷期	(III) 間氷期	(III) リス氷期	(II) 間氷期
被子植物時代				
人 類 時 代				
				人 類 の 発 展 に 向 か う。
新石器時代	旧石器時代			
	後 期	中 期	前 期	
(ネアンデルタール人) ← 旧 人 →		[ ハイデルベルグ人 北京原人・ジャワ原人 ] ← 原 人 →		
[ クロマニヨン人 上洞人 ] 新 人 →		(野尻湖人)		
日本列島の形成 ← 氷河の消長に伴い 海水面の昇降を繰 り返す。				

新 生 代			代	時代区分
五 〇 万	一 七 〇 万		今から何年か の 年 数	
第 四 紀			紀 (世)	植物
洪 積 世 (更新世)				
中 期		前 期		動物
(II) ミンデル氷期	(I) 間氷期	(I) ギュンツ氷期	ドナウ寒冷期	
被子植物時代			人類	生物の変遷 (進化)
る。被子植物繁栄す				
人 類 時 代			人類	地殻変動
旧石器時代				
前 期			人類	地殻変動
(アウストラロピテクス) 猿 人				
大氷河時代 (四回の氷期による寒温のくりかえし)			火山活動 (富士山)	地殻変動



# 歴史年表

## 年表 II

凡例

□ 囲いは閏月を指す

新 生 代		代	時代区分
		今から前 年数の	
現 世	第 四 紀	紀 (世)	
	沖 積 世 (完新世)		
	後 氷 期		
被子植物時代			植物
人 類 時 代			生物の変遷(進化)
人類、絶頂期 (?)に向かう。		人類、繁栄に向 かう。	
石油文化・鉄文化時代	青銅文化時代		
(現 人)			人類
新 人			
温 暖 化			地殻変動
造山、火山、氷河の諸 現象のなごり。			



原 始 時 代		時 代	
縄 文 文 化 時 代			
晩 期		後 期	
六六〇年前		一〇〇〇年 前ごろ	
◎ 日本紀元。神話の神武天皇即位式。		◎ 製塩・養蚕・酒造など始まる。	
○ 石鏃急増。		○ 稲作始まる。	
○ 山ノ寺式土器、夜臼式土器。		○ 敷田遺跡（玄海町平尾）	
◎ 玄海町内には、縄文時代遺跡が多い。		○ 大橋遺跡（玄海町今村）	
東 周	春 秋	西 周	殷（商）
三三三年前 釈迦没（インド）		七三六年前 第一回オリンピック 競技会（ギリシャ） 七七一年前〜四七六 年前 春秋時代（中国） 四七九年前 孔子没（論語）（中国）	
一三〇〇年前ごろ 黄河文明繁栄（中国） 一一二〇年前ごろ 周王朝成立（中国）		一七〇〇年前ごろ メソポタミア文明 繁栄（西亜） 一六〇〇年前ごろ 夏王朝滅亡し、殷 （商）王朝の成立（中 国）	

原 始 時 代		時 代	
縄 文 文 化 時 代			
		中 期	
二〇〇〇年 前ごろ		三〇〇〇年 前ごろ	
○ 気候の冷涼化進む。 鐘ヶ崎式土器、三万田式土器。		○ 阿高式土器。 貝塚が多数群在。 焼畑農業開始。 死者の伸展葬出現。	
○ 鐘ヶ崎貝塚（福岡県） 三万田遺跡（熊本県）		○ 阿高貝塚（熊本県） 日の出松遺跡（玄海町有浦上） 赤松海岸遺跡（鎮西町） 新木場上場遺跡（肥前町）	
夏		中国	
		朝鮮	
二〇〇〇年前ごろ バビロニア王国興る。		建設。 三〇〇〇年前ごろ インダス都市文明 繁栄（インド） 二七〇〇年前ごろ エジプト文明繁栄。 二五〇〇年前ごろ インダス文明成立 （インド） エーゲ文明発生 （ギリシャ） 黄河文明おこる （中国） 二一〇〇年前ごろ 夏王朝成立。	
		国外の事象	

原 始 時 代		弥 生 文 化 時 代		後 期		中 期	
						五七	
				二〇〇		一〇〇	
				一三九 二四八		一四四 一八八	
○ 倭の奴の国王が後漢に遣使。		○ 倭国、内戦続く。 ○ 卑弥呼、耶馬台国女王に共立される。		○ 円墳・方墳・前方後円墳など築造始まる。		○ 大和朝廷の支配力強まる。	
		○ 上場ではほかに大友遺跡（呼子町）、押川遺跡（肥前町）、波戸島ノ巣遺跡（鎮西町）などがある。					
西 晋		三 国 時 代		後 漢			
		高 句 麗					
二六五年 晋建国（中国） 二八〇年 晋、呉を滅ぼして 天下統一（中国）		二二〇年 漢滅び魏蜀呉の三 国時代。		一〇〇〜一一〇年 新約聖書成る。 一八四年 黄巾の乱（後漢）		三〇年 キリスト十字架に かかる。	

原 始 時 代		弥 生 文 化 時 代		中 期		前 期	
						三〇〇年前	
				一〇〇年前		〇紀元	
				〇 末盧国誕生。		〇 弥生式土器の製作、使用。 〇 青銅器、鉄器の使用、製作。	
		〇 倭国（日本）百余国の集落国 家成立。 〇 支石墓・箱式石棺墓が発達		〇 葉山尻（支石墓）遺跡（唐津市半田） 〇 玄海町内の弥生遺跡は八田浦遺跡（カメ棺墓、石棺墓）、浅湖遺跡などがある。		〇 鶴崎遺跡（唐津市宇木波田）	
		新		前 漢		秦	
		高 句 麗					
二五五年 後漢中国を統一。		八〜一三年 新の成立（中国）		四年前ごろ キリスト誕生（イ スラエル） 三七年前 高句麗建国（朝鮮）		二二二年〜二〇六年 前 秦の天下統一（中国） 二〇二年前 前漢の高祖中国統 一（中国） 一〇八年前 漢、楽浪郡（朝鮮） を置く。	
						中国	
						朝鮮	
						国外の事象	

古 代		古 墳 時 代		後 期	
飛鳥時代		古 墳 時 代		後 期	
(庚辰)	3	宣化2	繼体21	欽明23	推古1 (癸丑)
五〇〇	五〇二	五三七	五二七	五六二	推古8 (庚申)
倭王武を梁の武帝が征東將軍とする。	○ 倭王武を梁の武帝が征東將軍とする。	○ 筑紫の国造・磐井の反乱。	○ 筑紫の国造・磐井の反乱。	○ 任那の日本府滅ぶ。	○ 聖徳太子摂政となる。
○ 島田塚古墳(唐津市鏡)	○ 島田塚古墳(唐津市鏡)	○ ひさご塚古墳(呼子町加部島)	○ ひさご塚古墳(呼子町加部島)	○ 鬼塚古墳(唐津市神集島)	○ 大橋遺跡(玄海町今村)生活跡と集落跡。
南北朝	南北朝	南北朝	南北朝	南北朝	南北朝
高麗	高麗	高麗	高麗	高麗	高麗
百濟	百濟	百濟	百濟	百濟	百濟
新羅	新羅	新羅	新羅	新羅	新羅
四七六年 西ローマ帝国滅亡。	四七六年 西ローマ帝国滅亡。	五七一年 マホメット(一六三二)生まれる(サウジアラビヤ)	五七一年 マホメット(一六三二)生まれる(サウジアラビヤ)	五八九年 隋の天下統一(中国)	五八九年 隋の天下統一(中国)

古 代		古 墳 時 代		後 期	
中 期		前 期		後 期	
(庚申)	3	宣化2	繼体21	欽明23	推古1 (癸丑)
三〇〇	三〇〇	五三七	五二七	五六二	推古8 (庚申)
崇神を最初の大王とした国家が成立したとみなされる。	○ 崇神を最初の大王とした国家が成立したとみなされる。	○ 倭王武、宋に使者を送る。	○ 倭王武、宋に使者を送る。	○ 任那の日本府滅ぶ。	○ 聖徳太子摂政となる。
○ 谷口古墳(浜玉町)	○ 谷口古墳(浜玉町)	○ 久里双水前方後円墳(松浦地方最大・唐津市久里)	○ 久里双水前方後円墳(松浦地方最大・唐津市久里)	○ 鬼塚古墳(唐津市神集島)	○ 大橋遺跡(玄海町今村)生活跡と集落跡。
中国	中国	南北朝	南北朝	南北朝	南北朝
朝鮮	朝鮮	高麗	高麗	高麗	高麗
国外の事象	国外の事象	百濟	百濟	百濟	百濟
三二六年 西晋滅び五胡十六国時代に入る(中国)	三二六年 西晋滅び五胡十六国時代に入る(中国)	四三九年 北朝が華北を統一(中国)	四三九年 北朝が華北を統一(中国)	五八九年 隋の天下統一(中国)	五八九年 隋の天下統一(中国)

凡例 □ 囲いは閏月を指す。

時代		古 代	
年	代	飛鳥時代	白鳳時代
日本曆 推古12 (甲子)	西曆 604	4・ 聖徳太子憲法十七条を 定す。	8・ 小野妹子らを隋に派遣す。 (遣唐使の始まり)
舒明2 (庚寅)	630	8・ 大山御田歟らを唐に派遣 する(遣唐使の始まり)	7・ 遣唐使船が松浦海岸から 船出するようになる。
大化1 (乙巳)	645	6・ 中大兄皇子ら蘇我入鹿を 殺す。	6・ このころ火の国が火前、 火後にわかれたといわれる。 また郡・郷・里制が定まり、 松浦郡など各郡ができた。
舒明4 (戊午)	658	4・ 阿倍比羅夫、蝦夷を討つ。	
白雉3 (壬子)	652	4・ 初めて戸籍をつくる。	
丁未3 (丁未)	647	1・ 「大化の改新」の詔を発す。	
丙午2 (丙午)	646	6・19 初めて年号を制定「大化」とする。	
天智2 (癸亥)	663	8・ 白村江の戦い。日本海軍、 唐の水軍に敗れる。百濟、 完全に滅ぶ。	

時代		古 代	
年	代	白鳳時代	天智時代
天智2 (癸亥)	663	8・ 白村江の戦い。日本海軍、 唐の水軍に敗れる。百濟、 完全に滅ぶ。	6・ 壬申の乱。
甲子3 (甲子)	664	2・ 対馬、老岐、筑紫に防人 を置く。この年水城を造る。	6・ 壬申の乱。
乙丑4 (乙丑)	665	この年以降、大野城・基 肆城などを築く。	6・ 壬申の乱。
丁卯6 (丁卯)	667	対馬に金田城、讃岐に屋 島城、河内と大和の国境に 高安城を築く。	6・ 壬申の乱。
天武5 (丙子)	676	国司制度を定める。	6・ 壬申の乱。
弘文1 (壬甲)	672		6・ 壬申の乱。
天武4 (庚子)	700		6・ 壬申の乱。
大宝1 (辛丑)	701	8・ 「大宝律令」できる。	6・ 壬申の乱。





古 代		時 代		平 安 時 代	
貞観8 (丙戌)	八六六	11・17	大宰府や山陰の諸国の兵に試練を加えさせ、新羅への防備を強化する。		
(己丑)11	八六九	5・22	新羅の海賊船二隻が博多津にきて豊前国の年貢綿絹を略奪する。		
		9・7	『貞観格』選上施行、『続日本後紀』成る。		
(癸巳)15	八七三	4・21	皇子、皇女に源姓を与える(清和源氏のはじまり)	○	田島神社正四位下昇叙。
(丙申)18	八七六	9		○	値嘉島、肥前国から独立。肥前国松浦郡庇羅、値嘉の二郷を合わせて値嘉島を置く。
元慶8 (甲辰)	八八四	6・2	藤原基経関白となる(関白の初め)	○	田島神社、正四位上に昇叙。神田十四丁五反給さる。
仁和1 (乙巳)	八八五	4・12	新羅使が肥後天草郡に来着。		
寛平1 (己酉)	八八九	5	高望王らに平姓を与える(桓武平氏)		
		唐		新 羅	
				八七〇年 メルセン条約(独、仏、伊三国の始め) 八七五〜八八四年 黄巢の乱(中国)	

古 代		時 代		平 安 時 代	
大同1 (丙戌)	八〇六	6・10	空海帰朝し、真言宗を開く。		
(丁亥)2	八〇七	2・13	『古語拾遺』成る。		
弘仁5 (甲午)	八一四	6・1	『新撰姓氏録』選上。		
承和2 (乙卯)	八三五	○	宍防備強化のため兵士の充実をはかる。	○	大宰府管内疫病大流行、農民の半ば死ぬ。
(戊午)5	八三八	○			
(己未)6	八三九	○	大宰府、新羅船を建造。		
(辛酉)8	八四一	8・10	大宰府の防人百四人を対馬島に当てる。		
(癸亥)10	八四三	8・22	対馬の防人に筑紫人が増強される。		
天安2 (戊寅)	八五八	○	藤原良房、摂政となる(入臣摂政の始まり)	○	田島神社、従四位上に叙される。
貞観1 (己卯)	八五九	○			
		唐		新 羅	
				八六二年 ロシア建国。	

古 代		時 代	年
平 安 時 代		西 曆	日 本 曆
延喜 3 (癸亥)	乙丑 5	九〇三	延喜 3 (癸亥)
8・2 藤原時平ら『三代実録』 (歴史書)を奉る。	九〇五	九〇七	丁卯 7
2・25 菅原道真死す(五十九歳)	紀貫之ら『古今和歌集』 選上(勅選和歌集の始まり)	11・15 『延喜格』選上。	
9・27 『延喜式』選上。	九二七	九三五	承平 5 (乙未)
2・ 『平将門』伯父を殺す。承平・天慶の乱はじまる。			
五代十国	唐		
新 羅			
九〇七年 唐の滅亡、五代十国時代開始(中国)	九一六年 滿州に遼(契丹)建国(中国)	九一八年 王建高麗を建つ(朝鮮)	九二三年 後梁を滅ぼし後唐を建国(中国)
九二六年 渤海滅ぶ(中国)	九三五年 高麗、朝鮮を統一、新羅滅亡(朝鮮)		

古 代		時 代	年
平 安 時 代		西 曆	日 本 曆
昌泰 2 (己未)	延喜 1 (辛酉)	八九九	昌泰 2 (己未)
9・30 遣唐使廃止。	九〇〇	九〇一	(庚申) 3
9・13 大宰府に弩師を増置する。	9・24 宇多上皇剃髮(法皇の始まり)	10・24	
9・30 大宰府、新羅賊二〇人を殺す。	1・25 菅原道真大宰権帥に左遷。 『竹取物語』(日本最古の小説)成る。 『伊勢物語』(歌物語の初め)成る。		
9・5 対馬守文室善友ら、新羅の賊を破る。			
4・14 新羅の賊が対馬島に到着し、大宰府に追討の命令がだされる。			
5・10 菅原道真、『類聚国史』を選ぶ。			
5・11 新羅の賊が肥前国松浦郡に来る。			
唐			
新 羅			



時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
永保3 (癸亥)	一〇八三	9・清原家衡そむき後三年の役(一〇八三〜八七)起きる。				
応徳3 (丙寅)	一〇八六	9・16 『後拾遺和歌集』選上。				
嘉保1 (甲戌)	一〇九四	11・26 院政開始(白河上皇) 延暦寺、興福寺の僧徒乱行続く。				
乙亥 <sup>2</sup>	一〇九五	北面武士設置。				一〇九六〜九九九年 第一回十字軍。
康和2 (庚辰)	一一〇〇					一〇九九年 エルサレム王国の建設。
元永1 (戊戌)	一一一八	○ 西行法師(一一一八〜八九) 現れる。『山家集』成る (編者、年代不明)				一一一五年 金(女真)の建国(北アジア)
天治1 (甲辰)	一一二四	8・20 平泉中尊寺金色堂建立。	○ 松浦党祖源久、源勝に波多、石志などを分与する。			一一二七年 北宋の滅亡、南宋の成立(中国)
保延5 (己未)	一一三九		○ 有浦八幡社鎮座(玄海町) 松浦荘成立する。			

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
久安2 (丙寅)	一一四六	11・26 源為朝、鎮西において乱行。	○ 源大夫久没す(八十四歳)			
久寿1 (甲戌)	一一五四					
保元1 (丙子)	一一五六	7・保元の乱。				
平治1 (己卯)	一一五九	12・9 平治の乱。				
永暦1 (庚辰)	一一六〇	3・11 平氏、源頼朝を伊豆に配流。				
仁安2 (丁亥)	一一六七	2・11 平清盛、太政大臣となる。				
安元1 (乙未)	一一七五	9・僧源空(法然)、専修念仏(浄土宗)を唱える。	○ 平政子、松浦荘を建礼門院(高倉天皇の生母平滋子)へ寄進する。			
治承4 (庚子)	一一八〇	8・17 源頼朝、伊豆に挙兵する。				
養和1 (辛丑)	一一八一	9・7 源義仲、信濃に挙兵する。	○ 九州の武士たちも平家に背後を見せる者が現れる。松浦党、頼朝に応ずる。			
寿永2 (庚卯)	一一八三	7・25 平氏、安徳天皇を奉じて西海におもむく。源義仲京都にはいる。	○ 九州の武士、頼朝に従うとして平家に謀反の旗をひるがえす。			一一八〇年 朱子学完成(中国)

中 世		古 代	
鎌 倉 時 代		平 安 時 代	
建曆2 (壬申)	承久1 (己卯)	元久2 (乙丑)	正治2 (庚申)
3	2	5	3
1100	1105	1192	1197
3・26 『新古今和歌集』(藤原定家ら)選上。	1・27 將軍実朝殺され(二十八歳)、源氏滅亡。北条氏幕府の実権を握る。	7・12 源頼朝、征夷大将軍となり、鎌倉幕府を開く。	2・ 源義経、陸奥にのかれ、藤原秀衡に身を寄せる。 ○ 藤原泰衡(三十五歳)殺される。頼朝、奥州平定。 僧栄西、帰朝して禅宗(臨濟宗)を広める。
			12・ 草野永平、松浦郡鏡社宮司となる。
			○ 僧栄西、平戸葦ノ浦に帰着し、同地富春庵に日本最初の茶畑と座禅石を残す。
南 宋			
高 麗			
一二〇六年 チンギス・ハンの 蒙古統一(モンゴル帝 国の成立)			

古 代		時 代
平 安 時 代		年 代
文治1 (乙巳)	丙午 2	日本暦 西暦
1	2	元暦1 (甲辰) 二八四
2・7 源平合戦(ノ谷の合戦)	2・19 源義経、屋島に平氏を破る。 3・24 源義経、壇ノ浦に平氏を滅ぼす。 ○ 安徳天皇入水。 11・29 源頼朝、諸国に守護、地頭を設置。	二八五 二八六
○ 頼朝は九州の武士に参軍を呼びかける。	○ 唐津神社を創建した神田宗次をこの宮の祭神として祭り、以後神田氏の産土神として崇敬。	1・5 (陰暦元年十二月五日) 竜造寺季家、鎌倉幕府から肥前国竜造寺村(今の佐賀市南部地域)地頭職の下文(くだらふみ、公文の下知状)を受く。
		中国
		朝鮮
		国外の事象



時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
承久3 (辛巳)	一一三二	5・14 承久の変おこる。 6・16 六波羅探題設置。				
元仁1 (甲申)	一一三四	1・ 僧親鸞、浄土真宗開く。				
嘉祿2 (丙戌)	一一三六	○ 秋のころ九州の辺民、高麗沿海の地に侵寇する。	10・17 松浦党と称し、数十隻の兵船をもって巨濟島を侵略す。恵日寺(唐津市鏡)の鐘はこの時のものか。			
安貞1 (丁亥)	一一三七	○ 僧道元帰朝、禅宗(曹洞宗)を開く。				
寛喜1 (己丑)	一一三九		2・21 松浦荘領家、荘内福永名地頭石志氏に荒野開発を許可する。			
貞永1 (壬辰)	一一三三	8・10 幕府「御成敗式目」(貞永式目)を定める。	12・ 石志潔、松浦荘擬別当となる。			一一四一年 蒙古軍の東欧侵寇。
暦仁1 (戊戌)	一一三八					
宝治1 (丁未)	一一四七	○ この年『源平盛衰記』成る。				

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
建長5 (癸丑)	一一五三	4・ 僧日蓮、日蓮宗を唱える。				
(甲寅) 6	一一五四	10・ 『古今著聞集』(橋成季)成る。				
文応1 (庚申)	一一六〇	7・16 日蓮、「立正安国論」を執筆。北条時頼に呈する。				一一六〇年 フビライ(元)の世祖即位(中国)
文永2 (乙丑)	一一六五	12・26 『続古今和歌集』(藤原基家)成る。				
(丁卯) 4	一一六七	9・ 高麗の使者来る。				一一七〇年 四回目の使節を遣い返されたフビライは同年三月、日本侵寇を決意する。
文永8 (辛未)	一一七一	9・19 蒙古の使者、趙良弼来朝す。				一一七一年 フビライ、国号を元とする(中国)
(甲戌) 11	一一七四	10・5 文永の役。蒙古軍(元軍)、対馬、志岐、松浦など	10・17、18 このころ、蒙古軍松浦地方を侵す。松浦党、白			一一七一年 マルコポーロの東方旅行。
鎌倉時代				南 宋	高 麗	

中 世		時代
鎌 倉 時 代		
嘉元1 (癸卯)	正安2 (庚子)	1130
正安1 (己亥)		1199
	永仁1 (癸巳)	1193
	(甲午) 2	1194
	(丁亥) 10	1187
	弘安8 (乙酉)	1185
12・19 『新後撰和歌集』(藤原為世)成る。	4・10 鎮西に評定衆を設置。 鎮西に引付衆設置。	1・27 鎮西に評定衆を設置。 鎮西に引付衆設置。
	3・7 鎮西探題を置く。	7・ 元軍船、大暴風のため鷹島沖(伊万里湾)で漂流。
	3・ 鎮西探題、筑前、肥前などに烽火を置く。	○ このころ肥前の総田数、一万七九一八町歩。
	11・11 佐志継ら松浦一族を代表し、所領訴訟に鎌倉に赴く。	11・25 幕府、松浦荘領家職を荘内の地頭に分与する。
元		
高 麗		
1130年 羅針盤の發明(イギリス)	1199年 マルコ・ポーロ『東方見聞録』(イタリヤ)	1199年 オスマン・トルコの建国(トルコ)

中 世		時代
鎌 倉 時 代		
	弘安3 (庚辰)	1180
	(辛巳) 4	1181
	(丙子) 2	1176
	建治1 (己亥)	1175
6・6 蒙古軍(元軍)博多湾志賀島を侵す。我將兵これを要撃する。	5・21 弘安の役。蒙古軍(元軍)対馬を侵す。	○ 『十六夜日記』(阿仏尼)成る。
	3・15 また、異国征伐を鎮西の御家人らに命じる。	3・10 幕府、鎮西の将士らに命じて、博多湾南岸地域に要害石築地を造らせる。
	○ 九州探題を置く。 一遍、時宗を開く。	11・ 九州探題を置く。
		を侵し、博多湾沿岸に上陸する。我將兵各所に迎撃する。夜大風起こり艦船漂流する。
		石、千葉、その他肥前の諸氏、松浦、博多沿岸などにこれと戦う。
元	南 宋	中国
高 麗		朝鮮
		国外の事象
		1179年 南宋の滅亡。元の中国統一(中国)



時代		中世	
年	代	南	北
日本曆	西曆	(南) 正平5 (北) 観応1 (庚寅)	(南) 興国3 (北) 康永1 (壬午)
		1350	1342
国内の事象		2・邦民、高麗の固城、竹林、巨済などを侵す。以後しばしば侵寇。	8・16 後醍醐天皇、崩御(五十二歳) ○ 北畠親房『神皇正統記』を著す。
県内関係事象		1・足利直冬、肥前御家人を召す。 3・直冬、今川直貞を將として兵を肥前に進め、ついで杵島、小城、佐賀各郡下に戦い、その勢威肥前の大平に及ぶ。	○ 有浦地名の初見(有浦文書「佐志勤の讓状案」) 2・12 普恩寺本尊仏造立(玄海町)但し紀年銘は暦応五年(康永一)とある。
中国		元	
朝鮮		高麗	
国外の事象			

時代		中世	
年	代	南	北
日本曆	西曆	(南) 延元2 (北) 建武4 (丁丑)	(南) 延元3 (北) 暦応1 (戊寅)
		1337	1338
国内の事象		12・21 後醍醐天皇、京都を出て吉野にうつる。	8・11 尊氏、將軍となり、足利幕府を開く。 9・18 懷良親王、征西將軍となり九州に向う。上下松浦党が一揆して、参加の石垣山合戦。
県内関係事象		3・草野氏ら肥前御家人、尊氏に従って東上し、次いで京都内外に戦う。 2・九州探題一色道猷、肥前御家人より起請文を徴する。	○ 肥前御家人ら探題方に属して、肥後石垣山で菊池氏と戦い、松浦党ら多数死者を出す。 ○ 肥前御家人ら探題方に属して各地に戦う。 ○ 值賀神社鎮座(玄海町下宮)
中国		元	
朝鮮		高麗	
国外の事象			一三三七〜一四五三年 英・仏百年戦争はじまる。

中世		室町時代	南北朝時代	時代
南	北			
(南) 文中1	(北) 王子5	(南) 天授1	(北) 永和1	(南) 文和1
(南) 元中8	(北) 康暦2	(南) 元中8	(北) 康暦2	(南) 元中8
(南) 明徳2	(北) 辛未2	(南) 明徳2	(北) 辛未2	(南) 明徳2
(南) 南9	(北) 壬申3	(南) 南9	(北) 壬申3	(南) 南9
(南) 応永4	(北) 丁丑4	(南) 応永4	(北) 丁丑4	(南) 応永4
一三九二	一三九二	一三九二	一三九二	一三九二
10・5	10・5	10・5	10・5	10・5
南北朝合一する。	南北朝合一する。	南北朝合一する。	南北朝合一する。	南北朝合一する。
足利義満、北山に金閣を造営。	足利義満、北山に金閣を造営。	足利義満、北山に金閣を造営。	足利義満、北山に金閣を造営。	足利義満、北山に金閣を造営。
倭寇、高麗の諸州を侵す。懐良親王、大宰府を去つて筑後高良山に陣する。	倭寇、高麗の諸州を侵す。懐良親王、大宰府を去つて筑後高良山に陣する。	倭寇、高麗の諸州を侵す。懐良親王、大宰府を去つて筑後高麗に陣する。	倭寇、高麗の諸州を侵す。懐良親王、大宰府を去つて筑後高麗に陣する。	倭寇、高麗の諸州を侵す。懐良親王、大宰府を去つて筑後高麗に陣する。
降倭、藤経光を謀殺しようとしたことが(8・26)洩れる。	降倭、藤経光を謀殺しようとしたことが(8・26)洩れる。	降倭、藤経光を謀殺しようとしたことが(8・26)洩れる。	降倭、藤経光を謀殺しようとしたことが(8・26)洩れる。	降倭、藤経光を謀殺しようとしたことが(8・26)洩れる。
明王、倭寇の禁止を求めらる。	明王、倭寇の禁止を求めらる。	明王、倭寇の禁止を求めらる。	明王、倭寇の禁止を求めらる。	明王、倭寇の禁止を求めらる。
大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。
秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。
菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。
卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。
今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。
楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。
懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。
明	明	明	明	明
高麗	高麗	高麗	高麗	高麗
朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮
一三九〇年 李成桂、アキバツを雲峰に撃滅、大倭寇姿を消す(朝鮮)	一三九〇年 李成桂、アキバツを雲峰に撃滅、大倭寇姿を消す(朝鮮)	一三九〇年 李成桂、アキバツを雲峰に撃滅、大倭寇姿を消す(朝鮮)	一三九〇年 李成桂、アキバツを雲峰に撃滅、大倭寇姿を消す(朝鮮)	一三九〇年 李成桂、アキバツを雲峰に撃滅、大倭寇姿を消す(朝鮮)
一三九二年 李成桂、朝鮮を建国。	一三九二年 李成桂、朝鮮を建国。	一三九二年 李成桂、朝鮮を建国。	一三九二年 李成桂、朝鮮を建国。	一三九二年 李成桂、朝鮮を建国。

中世		室町時代	南北朝時代	時代
南	北			
(南) 正平16	(北) 康安1	(南) 正平16	(北) 康安1	(南) 正平16
(南) 貞治2	(北) 貞治2	(南) 貞治2	(北) 貞治2	(南) 貞治2
(南) 應安1	(北) 應安1	(南) 應安1	(北) 應安1	(南) 應安1
(南) 正平24	(北) 正平24	(南) 正平24	(北) 正平24	(南) 正平24
(南) 建徳2	(北) 建徳2	(南) 建徳2	(北) 建徳2	(南) 建徳2
(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2
(南) 正平24	(北) 正平24	(南) 正平24	(北) 正平24	(南) 正平24
(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2
(南) 建徳2	(北) 建徳2	(南) 建徳2	(北) 建徳2	(南) 建徳2
(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2	(北) 應安2	(南) 應安2
一三六三	一三六三	一三六三	一三六三	一三六三
8・6	8・6	8・6	8・6	8・6
能楽・世阿弥生まれる(一三六三〜一四四三)	能楽・世阿弥生まれる(一三六三〜一四四三)	能楽・世阿弥生まれる(一三六三〜一四四三)	能楽・世阿弥生まれる(一三六三〜一四四三)	能楽・世阿弥生まれる(一三六三〜一四四三)
明の太祖、書を懐良親王に送って倭寇の禁圧を求めらる。	明の太祖、書を懐良親王に送って倭寇の禁圧を求めらる。	明の太祖、書を懐良親王に送って倭寇の禁圧を求めらる。	明の太祖、書を懐良親王に送って倭寇の禁圧を求めらる。	明の太祖、書を懐良親王に送って倭寇の禁圧を求めらる。
大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。	大保原に戦う。
秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。	秋、松浦党諸氏、竜造寺氏ら少弐氏に属して、宮方の軍と肥前、筑前などに戦う。
菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。	菊池軍、大友を主力とする豊後も制圧し、九州全土を掌握する。
卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。	卯月十三日付波多広押書(『有浦文書』)に「唐津」の地名あり、唐津地名の初見とみられている。
今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。	今川仲秋、松浦に着き、翌月杵島塚崎に至る(12・15)。竜造寺氏その他の諸氏これに従う。
楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。	楊柳観音画像を僧良賢が淨財をもつて購入し、南北朝末期、鏡神社に寄進する。
懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。	懐良親王、自筆の梵綱經を神埼妙法寺に納めて亡母の冥福を祈る。
明	明	明	明	明
高麗	高麗	高麗	高麗	高麗
朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮
一三六八年 元倒れ明王朝の成立(中国)	一三六八年 元倒れ明王朝の成立(中国)	一三六八年 元倒れ明王朝の成立(中国)	一三六八年 元倒れ明王朝の成立(中国)	一三六八年 元倒れ明王朝の成立(中国)

時代		室町時代	
日本暦	西暦	日本暦	西暦
応永5 (戊寅)	1398	文安2 (乙丑)	1445
1	朝鮮王宮の宴に日本国使、 壹岐、対馬、西霸家台の使 人が招かれる。日本と朝鮮 の友好が保たれる。	宝徳1 (丁卯)	1447
		4	このころ茶の湯、生花、 連歌など広く行われる。 能楽・狂言盛んになる。
		室	1449
		11 (己未)	1439
		11	上杉憲実、下野足利学校 を修造する。
		27 (庚子)	1420
		27	水墨画家、雪州生まれる (1420-1506)
		28 (辛丑)	1421
		28	連歌師・宗祇生まれる(1 421-1502)
		3 (辛亥)	1432
		3	6・28 大内盛見、肥前に入る。 少弐氏の軍これを佐嘉付近 に破り、ついで上松浦諸氏 とともにこれを筑前に追う。
		8	千葉胤紹、同胤鎮と上佐 嘉に戦い敗死する。
		8	再び少弐として大宰府へ の帰国許される。
		7	少弐教頼、大内氏のざん げんにより大宰府から没落 し、竜造寺氏の保護を受け る。
		8	岸岳城主・源親、唐津大 明神へ神田を寄進する。
		明	
		朝鮮	
			1446年 訓民正音(諺文) ハンクル)公布(朝鮮)
			1429年 ジャンヌ・ダルク、 オルレアンの囲みを 解く。1431年、 処刑される(フランス)

時代		室町時代	
日本暦	西暦	日本暦	西暦
応永5 (戊寅)	1398	庚辰7	1400
1	朝鮮王宮の宴に日本国使、 壹岐、対馬、西霸家台の使 人が招かれる。日本と朝鮮 の友好が保たれる。	甲申11	1404
		11	足利義満、使を朝鮮に遣 わし物をおくる。 義満、明の勘合符により 船および人数を定め、勘合 貿易を始める。
		18 (辛卯)	1421
		18	南蛮船、若狭小浜に来る。 朝鮮の兵、対馬を侵し、 七月三日巨済に去る。
		19 (壬辰)	1422
		19	有浦天満宮鎮座(玄海町 有浦上)
		26 (己亥)	1429
		26	4・ 洪川満頼、少弐貞頼、鑰 尾泰高らと佐嘉、小城郡下 に戦う。
		7	松浦一族の彦島河原の戦 い。
		明	
		朝鮮	





中世		室町		戦国		時代	
明応9 (庚申)	文亀3 (癸亥)	永正2 (乙丑)	永正3 (丙寅)	大永1 (辛巳)	癸未3	(甲申)4	
1500	1503	1505	1506	1520	1522	1524	
3・幕府、勘合符を朝鮮に求む。	3・倭寇が全羅道に押し寄せ略奪をほし、官憲を殺す。	○ 倭寇、全羅道を侵し、濟州島の貢船を脅かし、数十人を殺傷する。	○ 幕府、金一万疋を即位費用として朝廷に献ず。	3・22 後柏原天皇、踐祚二十二年にして即位式を行う。	○ 千利休生まれる(一五二二、九二)	4・細川高国、大内義興、使いを明に遣わす。両使寧波にて争う。	2・11 武田信虎、上杉憲房と戦う。
明							
朝鮮							
このころ倭寇の活動盛んになる(中国) 一五一九―二二年 マジエラン世界一周(ポルトガル)							

中世		室町		戦国		時代	
長享2 (戊申)	延徳3 (辛亥)	明応1 (壬子)	(癸丑)2	(甲寅)3	(乙卯)4		
1488	1491	1492	1493	1494	1495		
6・加賀の一向一揆、守護富樫氏を討ち、ついで能登、越中などを攻略する。	○ 伊勢長氏(北条早雲伊豆を略す)。	5・2 少弐政資、大内氏の兵と筑前箱崎に戦う。			2・北条早雲、小田原城に移る。		
国内の事象							
県内関係事象							
明							
朝鮮							
一四九二年 コロンブス、アメリカ大陸発見(イタリヤ) 一四九八年 ヴァスコ・ダ・ガマ、インド航路発見(ポルトガル)							

中 世		室 町 戦 国 時 代	
年	代	日本暦	西暦
16	天文	(丁未)	一五四七
17	(戊申)	一五四八	
18	(己酉)	一五四九	
19	(庚戌)	一五五〇	
20	(辛亥)	一五五一	
23	(甲寅)	一五五四	
1	(乙卯)	一五五五	
10・1	毛利元就、陶晴賢を安芸		
7・20	織田信長、清洲城を奪う。 武田晴信、長尾景虎(後の上杉政虎)と戦う(川中島の戦い)		
9・1	大内義隆、その臣陶晴賢に襲われて自殺する。		
7・3	フランシスコ・ザビエル、鹿児島に來り天主教を布教。キリスト教伝来。		
3・27	大内義隆、竜造寺胤栄を肥前代官とする。		
6	波多老岐守盛が急死する。宗氏、朝鮮と条約を結び歳遣船交易を行う。		
○	日高大和守資(有浦城主)毒殺さる。		
7・1	竜造寺胤信、山城守を称し、大内義隆の一字を受けて隆信と改名する。		
10	竜造寺隆信、少弐冬尚を破る。		
4・9	波多源五郎隆、老岐の六人衆と呼ばれる老岐の地方役人に急襲され自刃する。		
明		朝 鮮	
倭寇、南京安定門を焼く(中国)		倭寇、南京安定門を焼く(中国)	
一五五五年		倭船七十隻が全羅道の達梁城を襲い官	

中 世		室 町 戦 国 時 代	
年	代	日本暦	西暦
2	享祿	(己丑)	一五二九
4	(辛卯)	一五三一	
3	天文	(甲午)	一五三四
8	(己亥)	一五三九	
12	(癸卯)	一五四三	
14	(乙巳)	一五四五	
○	大内義隆、勘合貿易を始める。城下町山口、地方文化の中心地として繁栄。		
8・25	ポルトガル商船種子島に漂着、火縄銃伝来。		
10	波多老岐守盛、妙音寺(相知町)を再建する。		
10	波多老岐守盛、能野神社(相知町)を再建する。		
○	春、大内氏の将陶興房、兵を率いて肥前に進攻する。		
7・15	竜造寺家兼ら陶興房を神埼三津山に破る。		
1	竜造寺軍、獅子ヶ城をおとす。		
明		朝 鮮	
一五四三年		コベルニクス(一四七三〜一五四三)地動説を唱う(ポーランド)	
一五三二年		インカ帝国滅ぶ(南アメリカ)	
国外の事象		国外の事象	





中世時代				時代
安土桃山時代				日本暦
(辛卯)19	(庚寅)18	(己丑)17	(戊子)16	年
一五九一	一五九〇	一五八九	一五八八	西暦
2・28 秀吉、千宗易(利休)を自殺させる。	1・20 秀吉、沿岸諸国に船艦を造らせる。 7・5 北条氏、秀吉に降伏する。秀吉、徳川家康を関東に封ずる。	○ ヤソ教を嚴禁、京都のヤソ寺院を焼く。 11・24 秀吉、小田原北条氏征伐を命じる。	9・ 秀吉、聚樂第をつくる。 5・15 加藤清正隈本城にはいり、小西行長宇土城にはいる。 5 肥後国一揆鎮圧される。 7・8 秀吉、海賊禁止令と刀狩令を発する。	国内の事象
10・10 秀吉、名護屋に築城の工を起す。 徳永九郎左衛門。值賀川内石工の祖。	3・10 波多鎮、從五位に叙せられ、名を親と改む。三十日参内して三河守に任せられる。	1・7 鍋島信生、直茂と改名し加賀守と称する。	4・6 秀吉、長崎を直轄領とし、鍋島信正(直茂)を代官とする。 11・ 波多鎮(親)に上洛の命令。	県内関係事象
明				中国
朝鮮				朝鮮
				国外の事象

中世時代				時代
安土桃山時代				日本暦
(丁亥)15	(丙戌)14	(天正)13 (乙酉)		年
一五八七	一五八六	一五八五		西暦
6・19 秀吉、キリスト教布教禁止令を出し、宣教師を国外追放。秋、肥後国侍一揆起こる。	6・7 秀吉、博多において諸將の論功行賞を行う。 5・8 島津氏、秀吉に降伏する。 3・25 秀吉、兵を率いて九州に入る。 5 方広寺を建てて。 1 秀吉黄金の茶室を内裏に造る。 7・11 秀吉、閑白となり、五奉行を置く。	4・9 秀吉、家康と小牧、長久手に戦う。 6・16 秀吉、四国の長宗我部元親を討つ。		国内の事象
6・21 秀吉、波多下野守鎮(親)へ知行七百五十石の本領安どの朱印状を渡す。	6・7 竜造寺政家、肥前国内七郡の領地を与えられる。 4・7 波多下野守鎮(親)、高良山に参陣して御礼を遂ぐ。 4・7 竜造寺政家、高良山に赴き秀吉に謁し、従軍する。	3・24 竜造寺隆信、島津家久の軍と島原に戦って戦死する(五十六歳)		県内関係事象
明				中国
朝鮮				朝鮮
				国外の事象
				一五八五年 日本使節、ローマに到着。



中世		時代
安土桃山時代		日本暦
	文禄3 (甲午)	1594
○ 10	秀吉、伏見城を築く。 全国に検地実施。	
9	志摩守の代官任命に先だつて、波多田領の検地が行われる。	
9	寺沢広高、波多・草野領の代官となる。	
1	波多親、順天山で苦戦。	
1	正月下旬、ようやく釜山に出て帰国の途につく。	
1	寺沢志摩守、出水郡と水俣で、二万四千余石の加増を受ける。	
2	黒田甲斐守、波多親を海上に迎え秀吉の命を伝える。	
3	徳川家康、親を京都へ送る。入道して大翁了徹と号す。	
5	3 親、筑波山へ配流される。佐竹義宣、三百二十石三十人扶持を親に与える。	
明		
朝鮮		

中世		時代
安土桃山時代		日本暦
	文禄1 (壬辰)	1592
	(癸巳) <sub>2</sub>	1593
9	秀吉、大陸出兵の準備命令を下す。	
9	秀吉、朝鮮出兵を命じる。	
3	小西行長ら対馬府中において出航する。	
3	秀吉、京都を出発。	
4	小西行長ら釜山城を抜く。	
4	加藤清正ら釜山に上陸。	
4	清正、慶州城を抜く。	
5	小西、加藤、鍋島ら朝鮮京城にはいる。	
7	大政所死す。	
10	秀吉、葬儀をすませ大坂を出発、再び名護屋城へ。	
8	3 秀頼、誕生。	
10	唐津茶屋を建てる。	
○	春、名護屋城完成する。	
3	鍋島直茂、朝鮮に向かつて出航する。	
4	25 秀吉、名護屋に着く。	
7	22 秀吉、大政所危篤の報に上洛。	
9	寺沢志摩守、長崎奉行を命ぜられる。	
11	1 秀吉、名護屋に着く。	
○	夏、波多親、秀吉の怒りに触れて除封される。	
○	秀吉、波多氏の旧封を寺沢正成(広高)に与える。	
8	14 秀吉、名護屋を出発、大坂へ(秀頼誕生のため)	
明		
朝鮮		
国外の事象		

近 世		中 世	
江 戸 時 代		安 土 桃 山 時 代	
(壬子)17	(戊申)13	(乙巳)10	(癸卯)8 (壬寅)7 (慶長)6 (辛丑)
一六二二	一六〇八	一六〇五	一六〇三 一六〇二 一六〇一
4・13 宮本武蔵、佐々木小次郎 (嚴流)血闘。	3・11 ヤソ教の嚴禁。 3・11 家康、駿府城に移る。	4・26 幕府、松浦鎮信・有馬晴信・鍋島直茂らに南蛮渡航の朱印を許可する。	9・15 関ヶ原の戦い、東軍大勝する。家康、三成を破る。 1・ 家康、東海道駅伝馬の制を定める。 4・ 出雲阿国、京都で歌舞伎踊りを演ずる。 5・1 家康、京都に二条城を築く。 2・12 徳川家康、征夷大將軍に就任。江戸幕府開府。 4・ 煙草伝来、幕府、栽培を禁止。 4・26 幕府、松浦鎮信・有馬晴信・鍋島直茂らに南蛮渡航の朱印を許可する。
	○		9・20 有浦六平次、寺沢広高から天草郡で三百石あてがわれる。 ○ 唐津城築造はじまる。
明		明	
朝		鮮	
		一六〇〇年 東インド会社創立 (イギリス)	

中 世		時 代
安 土 桃 山 時 代		日 本 曆 年
(庚子)5	(戊戌)3	(丁酉)2 (慶長)1 (丙申) (乙未)4 (文祿)4
一六〇〇	一五九八	一五九七 一五九六 一五九五
9・ 加藤清正、蔚山にろう城する。	3・ 秀吉、醍醐の花見。 8・18 秀吉没す(六十二歳) 8・25 徳川家康、利家、在鮮の諸將を召還する。 7・24 ルソン国入貢。	7・15 豊臣秀次、高野山にはいり自殺させられる。 9・1 秀吉、大坂城で明使を引見し、表文の無礼を怒る。 11・15 天主教徒処刑(二八六二年に二十六聖人に列せられる) 1・1 慶長の役。秀吉、朝鮮再征を決し、この月、諸將に渡鮮を命じる。十四万の兵を送る。 1・ 鍋島清茂(後の勝茂)、朝鮮へ渡る。 ○ 郡内の大園蔵入地は残らず寺沢氏の知行となる。 志摩守、秀吉の旗本参謀から大名に取り立てられる。
	12・ 鍋島直茂、清茂父子朝鮮より帰朝し上京する。	1・ 秀吉、鍋島直茂に養父郡内において知行五千七百石を与える。
明		中国
朝		朝鮮
		国外の事象

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
慶長18 (癸丑)	一六三三	6・16 「公家衆法度」制定。 9・15 伊達政宗の遣使、支倉常長 <small>はせくらつねなが</small> に渡る。 10・1 大坂冬の陣。	8・3 唐津地方暴風雨。			
(甲寅)19	一六三四		○ 怡土郡二万石、替え地として唐津領となる。			
元和1 (乙卯)	一六四五	4・6 大坂夏の陣(豊臣氏滅亡) 6・13 幕府、一国一城の制を布く。 7・7 幕府「武家諸法度」「禁中並公家諸法度」を制定する。 4・17 徳川家康没(七十五歳)	5・8 値賀伊勢守病没。			
(丙辰)2	一六五六	8・8 幕府、明船以外の外国商船寄港地を長崎、平戸に限定。 4・17 徳川家康没(七十五歳)	○ 佐賀藩「肥前国絵図」を幕府に差出す。 ○ 唐津藩、庄屋家系決定する(庄屋絵) ○ 唐津藩、元和検地帳調製。 ○ 新田開発(大渡、鏡、新田完成)、松浦川の流れが現在のようになる。			一六一六年 女真のヌルハチ、 後金を建国(北アジ ア)

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
元和3 (丁巳)	一六七七	8・ 長崎・平戸両港をイギリス通商港とする。	○ 唐津藩「藩士戒示三条」を示す。			一六一八年 三十年戦争はじま る(ドイツ)
(戊午)4	一六七八					
(己未)5	一六八九	8・29 ヤソ教徒六十余人、京都七条河原で火刑。	○ 虹ノ松原に松を植える。			一六二〇年 このころシャム、 ルソンに日本町あり (タイ)
(庚申)6	一六二〇	8・ 幕府、西国諸大名に「難破船法規」を配布する。 ○ 諸国に伊勢踊り流行する。				一六二一年 三千人の日本人が マニラ郊外のデリラ オに日本町を復興す る。
(辛酉)7	一六二二	○				
(壬戌)8	一六二三	2・ 駅馬駄賃を定める。 8・ キリシタン五十五人を長崎で処刑。	○ 佐賀藩、楠久島、伊万里、有田に牧地を新設する。 ○ 有浦新田完成(二説では元和二年完成ともあり)			
9 (癸亥)	一六三三	10・ キリシタン五十人を江戸芝で火刑。 11・ イギリス平戸商館を閉鎖する。	○ 唐津藩内に新田、塩田開発。			
江戸時代				明	朝鮮	





時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
近世 江戸時代						
寛文3 (癸卯)	一六六三	○ 殉死の禁止。				
丁未7 (丁未)	一六六七	2・28 諸国に巡見使を派遣。	4・11 唐津藩主大久保忠職、九州探題となる。			
戊申8 (戊申)	一六六八	3・14 農民に儉約令を出す。 3・20 庶民に儉約令を出す。	6・23 普恩寺村、元和檢地帳の写を唐津藩に提出。			
己酉9 (己酉)	一六六九	8・ 幕府、閏十月一日以降は京柵使用を諸国に布達する。	8・21 大風雨、洪水で唐津は大被害。唐津ではつぶれた家五百九十五戸、稲の減収は一万三千石に及ぶ。			
庚戌10 (庚戌)	一六七〇		4・19 唐津藩主大久保忠職没(六十七歳)、養子忠朝家督を相続する。所領八万三千石。唐津藩、庄屋の十カ年転村制はじまる。			
				清	朝鮮	
						一六六一年 清の中国統一。

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
近世 江戸時代						
延宝2 (甲寅)	一六七四	2・ キリスト教禁制の高札立つ。	5・25 唐津藩主大久保忠朝、幕府老中となる。			
丁巳5 (丁巳)	一六七七		1・ 唐津藩主大久保忠朝、下総佐倉へ転封。			
戊午6 (戊午)	一六七八		9・23 松平和泉守乗久、佐倉より入部。七万三千石。怡土郡一万石を幕府へ上地。			
天和1 (辛酉)	一六八一	1・28 幕府、將軍代替わりにつき諸国へ巡見使を派遣する。	○ 唐津領飢きん「天和の飢きん」。大久保氏の家中、永沢兵馬の二男で仏門に入り、楊州と号した黄髮僧は、市中に施粥所を設けて飢民の救済にあたる(餓死者千八百三十三人)			
壬戌2 (壬戌)	一六八二	12・ 八百屋お七の火事事件。	○ 唐津領飢きん「天和の飢きん」。大久保氏の家中、永沢兵馬の二男で仏門に入り、楊州と号した黄髮僧は、市中に施粥所を設けて飢民の救済にあたる(餓死者千八百三十三人)			
貞享3 (丙寅)	一六八六		7・17 唐津藩主松平乗久没(五十四歳)			
癸亥3 (癸亥)	一六八三		○ 餓死者供養のため、回向寺として楊州が筑紫山無量軒を唐津海士町に建つ。			
				清	朝鮮	
						一六八七年 ニュートン、万有

近世		時代	
江戸時代		時代	
元禄15 (壬午)	1702	12・15	大石良雄ら主君の仇を討つ。吉良義央を殺害。
癸未16 (癸未)	1703	2・4	幕府、大石良雄ら四十六人に切腹を命じる。
宝永4 (丁亥)	1707	11・23	富士山噴火し宝永山生じらる。
己丑6 (己丑)	1709	1・10	徳川綱吉、麻疹で没(六十四歳)
庚寅7 (庚寅)	1710	1・20	「生類憐みの令」を廃止する。
正徳1 (辛卯)	1711	3・1	幕府、諸国に巡見使を派遣。
(壬辰)2	1712	4・15	幕府、新井白石が草した「武家諸法度」など頒布する。
(癸巳)3	1713	5・	幕府、諸国に風紀、駅路、船渡、辻駕籠、回船などの高札を立てる。
		5・26	唐津藩、主土井利益没(六十四歳)、嫡子利実家督相続。
		5・	唐津藩、嚴重な儉約令を出す。
		○	唐津藩、坊主町御用黨はじまる(四代中里太郎衛門)
			一七〇七年 大ブリテン王国の成立(イギリス)
			清
			朝鮮

近世		時代	
江戸時代		時代	
貞享4 (丁卯)	1687	1・28	徳川綱吉、牛馬の「生類憐みの令」を出す。
元禄3 (庚午)	1690	12・22	湯島聖堂成る。
(辛未)4	1691		
(壬申)5	1692	8・	徳川光圀、楠木正成の碑を湊川に建てる。
(庚辰)13	1700	12・6	徳川光圀没(七十三歳)
(辛巳)14	1701	3・14	赤穂藩主浅野長矩、高家吉良義央に刃傷。
		9・12	松平乗春、乗久遺領七万石の内六万八千石を嗣ぐ。
		9・5	唐津藩主松平乗春没(三十七歳)、嫡子乗邑家督を相続。
		秋・	唐津領内大干害。
		2・9	唐津藩主松平乗邑、志州鳥羽へ転じ、鳥羽より土井周防守利益、唐津へ転封し来る。唐津領一万石を減せらる。
		○	唐津藩、間引きを禁止し、懐胎届の提出を命じる。
			清
			朝鮮
			引力の法則発見(イギリス)
			一七〇一年 プロシア王国の成立(ドイツ)
			清
			朝鮮

近世		江戸時代	
享保17 (壬子)	元文1 (丙辰)	(庚申) 5	寛保2 (壬戌) 3
1733	1736	1740	1743
10・7 幕府、虫害状況巡視のため、勘定徒目付を派遣する。 関西以西、大飢きん(飢民二六五万人、餓死者一万二〇〇〇余人という)	6 諸郷より災異を注進する(蝗害―大凶作―飢きん―享保の大飢きん。 夏からウンカが異常発生し、収穫が不能になり、飢きんに陥いる者、唐津領で四千五百人に達する。 唐津海士町無量軒で、粥の炊き出しされる。 吉武法命隠居(四十七歳)、民間塾さかんになる(唐津藩)	○ 凶作にそなえ、甘薯の栽培を奨励。	○ 唐津領内洪水。 秋虫付き不作、松浦地方。
清			
朝鮮			

近世		江戸時代	
享保1 (丙申)	(丁酉) 2	(庚子) 5	(壬寅) 7
1716	1717	1720	1723
4 五街道の呼称を決める。 (東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中)	2・3 大岡忠相、江戸町奉行となる。	○ 宗教外の漢訳洋書輸入を許可。	6・23 幕府、倭約令を出す。
○ 『葉隠聞書』完成。	○ 唐津藩、享保改革布達。	3・14 「武家諸法度」を頒布し天和の制に復帰する。	12・4 幕府、養生所を小石川に設く。
清			
朝鮮			
国外の事象			



近 世						
江 戸 時 代						
(壬午) <sup>12</sup>	(辛巳) <sup>11</sup>	(庚辰) <sup>10</sup>	(己卯) <sup>9</sup>	(丁丑) <sup>7</sup>	(癸酉) <sup>3</sup>	宝暦 <sup>2</sup> (壬申)
一七六二	一七六一	一七六〇	一七五九	一七五七	一七五三	一七五二
		○	○	○	○	○
		○ 葛飾北斎生まれる(一七六〇-一八四九)		○ 杉田玄白、蘭法外科医を開業。	○ 喜多川歌麿生まれる(一七五三-一八〇六)	○ 江戸、大坂間に定飛脚開始。
	○		2・			○
	○ 唐津領、干害、雨乞い神事行われる。		「自習亭」できる(佐志)			○ 水の被害で財政が窮迫し、儉約令が出される。 大串新田開発着工。宝暦三年(一七五三)完成(玄海町)
9・30						
唐津藩主土井利里、古河へ転封の命。 水野忠任、岡崎より唐津へ転封の命。						
清						
朝 鮮						
一七五二年 フランクリン電気 発見(アメリカ)						

近 世			
江 戸 時 代			
(丁卯) <sup>4</sup>	(丙寅) <sup>3</sup>	(乙丑) <sup>2</sup>	延享 <sup>1</sup> (甲子)
一七四七	一七四六	一七四五	一七四四
		12・30	
		幕府、使番を巡見のため に諸国に派遣する。	
12・13	11・26	5・22	4・10
唐津藩では利里の襲封に 際し、幕府の宿老接待その 他の臨時支出、領内の大洪 焼失する大火。	呼子海士分で八十七軒を 焼失する大火。	唐津領大洪水、松浦川は んらん、家屋流失。大川野 村では十六軒。死者でる。	幕府の巡見使として使番 徳永兵衛以下百人が唐津領 に入り、浜崎に二泊、十二 日呼子浦に二泊、十四日呼 子から平戸領の杓岐、郷ノ 浦に渡る。
清			
朝 鮮			
7・18 唐津藩主、土井利延没(十二歳) 9・23 土井利里、唐津藩家督相 続。 4・ 唐津藩、庄屋処遇で紛争 おこる「砂子(浜玉町)の席 論」			
中国			
朝鮮			
国外の事象			





時代		近世					
年	代	江戸時代					
日本暦	西暦	(甲戌)11	(壬申)9	(戊辰)5	(丙寅)3	文化2 (乙丑)	享和2 (壬戌)
		一八二四	一八二二	一八〇八	一八〇六	一八〇五	一八〇二
国内の事象		○ 伊能忠敬、大日本沿海実測完成。 『南総里見八犬伝』(滝沢馬琴)でる。	○ 伊能忠敬、大日本沿海実測完成。	4・13 間宮林蔵、樺太探検に宗谷を出発、間宮海峡を発見。			○ 『東海道中膝栗毛』(十返舎一九)刊行される。
県内関係事象			9・ 唐津藩主水野忠光隠居。忠邦家督相続。		4・22 和泉守(水野忠光)唐津城入部。	9・ 唐津藩主水野忠鼎隠居。忠光家督相続。	○ 夏、唐津領内大干ばつ。
中国		清					
朝鮮		朝 鮮					
国外の事象		一八一二年 ナポレオン、ロシア遠征失敗(フランス) 一八一四年 ナポレオン、エルバ島に流される。 一八一五年 ナポレオン、パリ入城。ワーテルロー					一八〇二年 ベトナムの統一(国号は越南) 一八〇四年 ナポレオン皇帝となる(フランス)

時代		近世		
年	代	江戸時代		
日本暦	西暦	(戊寅)1	(己卯)2	文化14 (丁丑)
		一八一八	一八一九	一八一七
国内の事象			○ 『おらが春』(小林一茶)でる。 『塙保己一』『群書類従』著す。	○ 『おらが春』(小林一茶)でる。 『塙保己一』『群書類従』著す。
県内関係事象		○ 奥州棚倉より、小笠原長昌唐津へ転封。 唐津領民、上知反対の動き起こる。大庄屋総代桜井理八郎ら六人、日田代官所へ出頭。さらに桜井理八郎田代寛作、百姓総代延左衛門ら復帰請願のため、江戸へ赴く。	9・ 唐津藩主水野忠邦浜松へ。その時殿木、大川野、平原など一万石の領地を幕府へ上知。	9・14 唐津藩主水野忠邦浜松へ。その時殿木、大川野、平原など一万石の領地を幕府へ上知。
中国		清		
朝鮮		朝 鮮		
国外の事象		に敗れ、セントヘレナに流刑。		

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
文政3 (庚辰)	一八二〇		2・ 吉田八郎右衛門、今村大庄屋(玄海町)として相知大庄屋から来る			
(辛巳) 4	一八二二	9・4 伊能忠敬『大日本沿海輿地全図』を幕府に献上。 長崎出島に来朝。	○ 唐津藩主小笠原長昌、領民に献金を命じる。			一八二三年 米國モンロー主義 宣言。
(癸未) 6	一八二三	7・6 ドイツの医師シーボルト 長崎出島に来朝。	9・26 唐津藩主小笠原長昌没し、 長泰家督相続。			
(甲申) 7	一八二四	○ シーボルト、長崎鳴滝で塾を開き診療を教授する。	5・8 長泰、唐津城に入る。			
(乙酉) 8	一八二五	2・18 幕府、諸大名に異国船打ち払いを指令する。	11・ 唐津藩、借財三十三万両。 返済計画を領民に示す。			
(丙戌) 9	一八二六		1・ 唐津藩、日銭(入頭税)の制はじめる。			
(丁亥) 10	一八二七	5・21 頼山陽『日本外史』を松平定信に献上する。				
(巳丑) 12	一八二九	9・25 幕府、シーボルトに帰国を命じ、再入国を禁じる。	12・15 伊東玄朴(蘭医)、佐賀藩御用一代侍に召し抱えらる。			一八二九年 ギリシャ独立。
天保2 (辛卯)	一八三二	○ 葛飾北齋『富岳三十六景』完成。				

時代		国内の事象	県内関係事象	中国	朝鮮	国外の事象
日本暦	西暦					
天保3 (壬辰)	一八三二	11・4 將軍、琉球使節引見する。 ○ 天保の大飢きん(一八三二-三三)				
(癸巳) 4	一八三三		7・24 唐津藩主小笠原長泰、隠居。能登守長家家督。			一八三五年 モールズ有線電信を發明(アメリカ)
(甲午) 5	一八三四		4・9 小笠原長会、唐津城入り。			
(丙申) 7	一八三六		2・19 小笠原長会、病気のため江戸藩邸で没す(二十六歳)			
(丁酉) 8	一八三七	2・19 大塩平八郎の反乱起きる。 大塩平八郎、飢きんに悩む貧民救出のため、兵を起こす。翌二十日鎮圧され、三月二十七日自殺。	9・21 小笠原長和、唐津城入り。			一八三七年 ビクトリア女王時代はじまる(イギリス)
(戊戌) 9	一八三八		2・19 幕領(厳木、大川野)一揆のけはい。幕府巡見使曾我又左衛門に、唐津幕領百姓直訴する。 9・肥前松浦郡の幕領に、一揆起こる(五ヶ山騒動)			
清						
朝鮮						

近世		時代		時代
江戸		時代		日本
江戸		時代		西暦
安政1 (甲寅)	6 (癸丑)	3 (庚戌)	嘉永1 (戊申)	弘化4 (丁未)
一八五四	一八五三	一八五〇	一八四八	一八四七
8・23 日英和親条約に調印。	7・ 日章旗を日本国の総船印とする。	3・3 日米和親条約(神奈川条約)調印。下田、函館の二港開港。	7・18 ロシアプチャーチン、長崎来航。	6・3 米国東インド艦隊司令官ペリー、国使として軍艦四隻を率いて浦賀に来る。
○	○	○	○	○
8・9 松尾兵左衛門、名古屋組(鎮西町)大庄屋へ転勤。	○	○	○	○
清				
朝鮮				
一八四八年 マルクス、エンゲルス(ドイツ)。 有名な『共産党宣言』を作成。 一八五〇―一八六四年 太平天国の乱(中国)				

近世		時代		時代
江戸		時代		日本
江戸		時代		西暦
弘化3 (丙午)	14 (癸卯)	13 (壬寅)	12 (辛丑)	11 (庚子)
一八四六	一八四三	一八四二	一八四一	一八三九
5・27 米東インド艦隊浦賀に来航。	3・ 宗門改めが血判改めから絵板踏み、すなわち踏み絵改めになる。	5・15 幕府の天保改革始まる。	8・ 『勸農書』が公布される。	5・14 幕府、渡辺華山、高野長英らを捕える。
○	○	○	○	○
5・5 満島村に炭方役所が開設される。	4・12 長国、唐津城入り。	10・ 唐津藩、百万本の御主意楮の植え付けの仕方が示され、併せて諸木植え付けが推進され、藍作りや甘薯の栽培も奨励された。	10・22 唐津藩、小笠原長和没し(十九歳)、長国家督相続。	2・28 唐津幕領百姓一揆、唐津藩の総攻撃にあい潰滅。捕虜五百二十七人。
清				
朝鮮				
一八四〇年 アヘン戦争(中国) 一八四二年 南京条約(中国)				

時代		近世				
年		江戸時代				
日本暦	西暦	安政 <sup>2</sup> (乙卯)	(丙辰) <sup>3</sup>	(丁巳) <sup>4</sup>	(戊午) <sup>5</sup>	
		一八五五	一八五六	一八五七	一八五八	
12・21	国内の事象	日露和親条約(下田で調印。下田、箱館、長崎を開く。)	12・23 日蘭和親条約調印。	7・3 米総領事ハリス着任。	5・26 ハリスと下田条約調印。	5・7 江戸の蘭方医、伊東玄朴らお玉ヶ池に種痘所を開設。
	県内関係事象	10・ 唐津藩家臣の俸禄を二割引き支給する。 ロシア船、小川島に来る。藩内さわぐ。	○ 藩内さわぐ。	9・21 小笠原長行、長国の養嗣子となる。	4・ 小笠原長行、長国の名代で唐津藩藩政改革を行う。	8・ 唐津領にコレラ大流行。
	中国	清				
	朝鮮	朝鮮				
	国外の事象	一八五八年 イギリス、インドを併合(ムガル帝国滅ぶ)				

時代		近世		
年		江戸時代		
日本暦	西暦	安政 <sup>6</sup> (己未)	万延 <sup>1</sup> (庚申)	文久 <sup>1</sup> (辛酉)
		一八五九	一八六〇	一八六一
5・28	国内の事象	神奈川、長崎、箱館三港にて、米、英、露、仏、蘭五カ国との貿易を許す(貿易記念日)	10・27 吉田松陰死罪(三十歳) 安政大獄。	2・3 ロシア軍艦、対馬占領を図る。
	県内関係事象	8・ 一八六〇、一八六一凶作、唐津地方。	8・ 16 イギリスの軍艦一隻が呼子浦へ入港。	7・ 呼子浦防禦のため赤木村(鎮西町赤木)に農兵が取り立てられる 赤木農兵隊。
	中国	清		
	朝鮮	朝鮮		
	国外の事象	一八五九年 グーウィン(一八〇九)の『種の起源』(イギリス)	一八五九年 天津条約(中国)	一八六〇年 北京条約(中国)

近世		時代
明治時代	江戸時代	日本暦
(戊辰) 4	(丁卯) 3 慶応2 (丙寅)	一八六二 (壬戌)
一八六八	一八六七 一八六六	一八六三 (癸亥)
<p>幕府、諸藩に長州再征を 発令。</p> <p>福沢諭吉、英学塾を慶応 義塾に改称。</p> <p>○</p> <p>薩長同盟成立。</p> <p>第二次長州征伐。</p> <p>征長軍、解兵令発布。</p> <p>9・4</p> <p>10・9 明治天皇(睦仁親王)即位。 翌日朝廷より許可。</p> <p>10・14 慶喜、大政奉還を請う。</p> <p>10・24 慶喜、將軍職の辞表を提 出。江戸幕府滅亡。</p> <p>12・9 王政復古の大号令出る。</p> <p>1・3 鳥羽伏見の戦い。</p> <p>3・14 五ヶ条の誓文を天地神明 に誓われる。</p> <p>4・11 討幕軍、江戸入城。</p> <p>4・25 英国籍帆船「サイホト号」 で、百五十三人がハワイ移</p>	<p>幕府、諸藩に長州再征を 発令。</p> <p>福沢諭吉、英学塾を慶応 義塾に改称。</p> <p>○</p> <p>薩長同盟成立。</p> <p>第二次長州征伐。</p> <p>征長軍、解兵令発布。</p> <p>9・4</p> <p>10・9 明治天皇(睦仁親王)即位。 翌日朝廷より許可。</p> <p>10・14 慶喜、大政奉還を請う。</p> <p>10・24 慶喜、將軍職の辞表を提 出。江戸幕府滅亡。</p> <p>12・9 王政復古の大号令出る。</p> <p>1・3 鳥羽伏見の戦い。</p> <p>3・14 五ヶ条の誓文を天地神明 に誓われる。</p> <p>4・11 討幕軍、江戸入城。</p> <p>4・25 英国籍帆船「サイホト号」 で、百五十三人がハワイ移</p>	<p>2・11 將軍家茂、和宮と結婚。</p> <p>4・23 寺田屋事件起こる。</p> <p>8・21 生麦事件起こる。</p> <p>11・2 幕府攘夷の奉勅を決定す る。</p> <p>5・10 長州藩、下関で米艦を砲 撃。</p> <p>7・2 薩摩藩、英国艦隊と交戦。</p>
<p>2・</p> <p>宣嘉</p> <p>2・7 小笠原長国、辞職する。</p> <p>2・27 長国上京のため、藩内大 小庄屋唐津へ行く。</p> <p>5・15 佐賀藩兵、アームストロ ング砲で上野戦争に活躍。</p>	<p>2・</p> <p>小笠原長行、征長全権と なる。</p> <p>6・</p> <p>唐津藩、門司白木崎に出 兵し敗れる。</p> <p>5・</p> <p>小笠原長行、外国事務総 裁となる。</p>	<p>9・11 小笠原長行、幕府老中格 となる。</p> <p>5・</p> <p>小笠原長行、唐津藩兵を 率いて上京。</p>
清	鮮	中国
朝	鮮	朝鮮
	<p>一八六七年 マルクス『資本論』 第一卷(ドイツ) 一八六七年 ノーベル、ダイナ マイト発明(スウェー デン)</p>	<p>国外の事象</p> <p>一八六三年 リンカーン米大統 領、奴隷解放(1・1) (アメリカ) ロンドンで世界最 初の地下鉄開通 (1・10)(イギリス)</p>

近世		時代
江戸時代		日本暦
慶応1 (乙丑)	元治1 (甲子)	一八六二 (壬戌)
一八六五	一八六四	一八六三 (癸亥)
<p>4・12 長州藩、再び幕府に反抗。</p> <p>3・</p> <p>長崎大浦天主堂竣工。</p> <p>8・</p> <p>第一回長州征討。</p> <p>8・5 英、仏、米、蘭の四カ国 連合艦隊、下関砲撃。</p> <p>7・19 蛤、御門の変。 れる(五十四歳)</p> <p>7・11 佐久間象山、京都で殺さ れる(五十四歳)</p>	<p>7・11 佐久間象山、京都で殺さ れる(五十四歳)</p> <p>7・2 薩摩藩、英国艦隊と交戦。</p> <p>5・10 長州藩、下関で米艦を砲 撃。</p> <p>7・2 薩摩藩、英国艦隊と交戦。</p>	<p>2・11 將軍家茂、和宮と結婚。</p> <p>4・23 寺田屋事件起こる。</p> <p>8・21 生麦事件起こる。</p> <p>11・2 幕府攘夷の奉勅を決定す る。</p> <p>5・10 長州藩、下関で米艦を砲 撃。</p> <p>7・2 薩摩藩、英国艦隊と交戦。</p>
<p>10・</p> <p>第一回長州征伐、唐津藩 二千余名出兵。</p>	<p>10・</p> <p>第一回長州征伐、唐津藩 二千余名出兵。</p>	<p>9・11 小笠原長行、幕府老中格 となる。</p> <p>5・</p> <p>小笠原長行、唐津藩兵を 率いて上京。</p>
清	鮮	中国
朝	鮮	朝鮮
	<p>一八六三年 リンカーン米大統 領、奴隷解放(1・1) (アメリカ) ロンドンで世界最 初の地下鉄開通 (1・10)(イギリス)</p>	<p>国外の事象</p> <p>一八六三年 リンカーン米大統 領、奴隷解放(1・1) (アメリカ) ロンドンで世界最 初の地下鉄開通 (1・10)(イギリス)</p>



近世		時代
明治時代		
明治3 (庚午)	明治4 (辛未)	日本暦
一八七〇	一八七二	西暦
刑部・宮内・外務の六省、 集議院、開拓使等をおく。 蝦夷地を北海道と改称。 2・ 大学規則、中小学規則を 制定。 5・ 各府藩県の石高、戸口を 調査。 9・10 藩制改革を布告。	平民の氏姓を許す。 9・19 徴兵規則公布。 4・5 戸籍法発布(明治五年二月 一日実施。壬申戸籍という) 7・14 廃藩置県の詔書出る。 8・9 散髪廃刀を許可する。 8・28 穢多、非人の呼称廃止。 10・3 宗門人別帳廃止。 11・2 知県事を県令とする。	
1・ 唐津藩、藩制改革を行う。 十一月藩制手直し。 10・ 田畑統一金納化。	9・4 佐賀県を伊万里県と改め 蔵原県を併合。 11・ 東京・長崎間に郵便設置。	
清		中国
朝鮮		朝鮮
一八七〇年 ナポレオン三世捕虜。第三共和政開始 (フランス) イタリヤ王国統一 完成。	一八七一年 ドイツ帝国成立。	国外の事象

近世		時代
明治時代		
明治1 (戊辰)	明治2 (己巳)	日本暦
一八六八	一八六九	西暦
4・21 政体書制定(三権分立主義) 5・15 上野の彰義隊鎮圧。 5・15 太政官札発行。 7・17 江戸を東京と改称。 9・8 慶応を明治と改元(二世一元の制) 1・20 薩長土肥四藩主、連署して 版籍奉還を上奏。 諸道の関所廃止。 6・17 版籍奉還。公卿・諸侯を 華族と改称。 7・8 職員令制定。神祇官、太 政官、民部・大蔵・兵部・	民として、横浜港を無許可 で出航。これが日本人のハ ワイ移民の最初。この後、 明治八年ハワイ王朝との間 に、第一回官約移民が行わ れた。	
1・ 唐津藩、庄屋会議開く。 6・17 小笠原長国、諸藩と共に 版籍奉還。十九日、唐津知 藩事の辞令を受ける。	6・7 長国、石炭五百万斤を京 都へ送る。 8・23 小笠原長国、帰国する。	
清		中国
朝鮮		朝鮮
一八六九年 スエズ運河開通。		国外の事象

索

引



夜白式(土器).....283・295

篠 役 .....※398

繪 旨 .....※531

遙 任 .....438・※439

遙拝塔 .....※692

ヨ

ル

ヨタカ .....141

ラ

ルーシー(化石骨).....253

ヨトウムシ .....225

ルリシジミ .....214

ヨロイインギンチャク .....117・※118

頼納質(らいのうじち).....914

ルリタテハ .....218

与 長 .....1012

リ

ルリヒタキ .....146

用 捨 .....※782

『類聚三代格』 .....392

用捨引き .....911

類人猿 .....253

用明天皇 .....328

リアス式海岸 .....47

レ

庸 .....※348

里 正 .....1012

庸 布 .....※330

李成桂 .....612

楊柳観音画像 .....※624

『李朝実録』 .....613

レイシダマシ .....110

養 蚕 .....69

「陸 橋」 .....257

レイシ(ニジミナ) .....110・※111

養殖漁業 .....47

陸上動物 .....203

『歴代鎮西要略』 .....497

横穴式石室 .....302

律令(制) .....329・336

連 雀 .....781

横田下古墳 .....303

竜馬社(りんこまさま) .....387

蓮光寺 .....※877

横 目 .....※901

竜駒社 .....66

礫 塊 .....254

吉田定房 .....529

竜造寺 .....631

礫石器 .....253・264

吉田姓 .....95

竜造寺隆信 .....643~663

ロ

吉田民作 .....95

竜造寺政家 .....663

吉武法命 .....841・854

隆起線文土器 .....※272

六年一班の原則 .....397・※398

吉富右近太郎資業 .....477

両生類 .....204

六波羅探題 .....529

良成親王 .....563

両 番 .....※900

牢 人 .....※877

義良親王 .....539・555

両面礫器 .....255

ワ

(後村上天皇)

領 家 .....※482

淀姫神社 .....64

領 掌 .....※568

呼子浦 .....34・999

領 民 .....743

ワカメ .....201

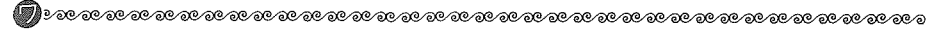
寄 船 .....726

緑藻類 .....195

ワクト .....205

撚紋文・貝殻沈線文文化 .....273

臨濟禪宗 .....524・716



わかば園 .....68

『和名抄』 .....403

倭 .....7

倭 国 .....14・314

倭 寇 .....425・524

『倭寇史考』 .....1068

「倭人伝」 .....337

若宮八幡神社 .....※160・※177・180

渡辺姓 .....95・713

渡辺滝口大夫泰 .....429

渡辺綱 .....95・426~432

渡辺久 .....429

(源太)

(筒井源大夫久)

渡 船 .....47・68

綿積神社 .....68

蝦蟇瀬 .....46・116



マフノリ	195	町方	1041	松浦党	425
マムシ	209	末羅県	14・316	『松浦党研究』	452
マメコガネ	225	末羅国造	337	『松浦党祖考』	426
マメシクイガ	225	末盧国	315	松浦波多久曾寿丸	474
マルアジ	229	松浦県	13・342	松浦波多藏人三郎祝	474
マルコ・ポーロ	485	『松浦かのご覚書』	756	松浦八郎定	534
マルタニシ	124・※126	松浦潟	29	松浦肥前守貞(定)	545
マンジュウボヤ	※108・109	松浦川	29・867	松浦廟宮(鏡神社)	384
マンリョウ	158	『松浦記集成』	85・478	『松浦廟宮先祖次第并本縁起』	385
まき網(きんちゃく網)	236	松浦郡	13・336・372	『松浦武士団』	456
まき貝(ミナ)	110	『松浦家世伝』	426	松浦舟	716
馬渡島(斑島)	12・19・351・505	松浦源三郎繁	543	松浦船原弥大譜	546
馬蛤潟新田	851	松浦源氏(松浦氏)	425	『松浦文書』	536
馬渡茂三太	712	松浦源二郎清	445	『松浦妙音寺文書』	404
馬渡氏	712	『松浦古事記』	713	松浦名物	868
摩崖仏	406	松浦佐用姫	323	『松尾庄屋文書』	831
磨消縄文土器	280	『松浦史』	896	松尾兵左衛門	1003
磨製石器	248	松浦執行授	477	松ヶ崎	46
舞川	43・69	(松浦丹後守)		松倉重政	753
前川姓	96	松浦二郎	451	松崎川	69
曲事	※842	松浦鎮信	653	松島	33
牧ノ地	43・69	松浦十郎連	464	松平定信	898
蒔田鎗次郎	263	『松浦拾風土記』	683	松平氏	735
榊取	1041	『松浦諸家系譜』	429	松平乗春	825
榊回し	892	松浦荘	399	松平乗久(大給松平)	822
斑島左衛門三郎締	522	松浦太郎高俊(利)	459	松平乘邑	825
斑島行覚(厚)	518	松浦鷹島中里菊寿丸授	569	松野尾嘉藤治	894
斑島源六納	546	松浦丹後守遠	591	松本庄屋家	94
斑島氏	479	松浦丹後大守源盛	614	松本姓	94
斑島淳	518	松浦持(原太郎)	427	松本良徹	94
『斑島文書』	403・518	『松浦十太輔契家草案』	549	松屋良左衛門	995

丸尾溜	48	美弥良久(三井楽)	375	源三郎淳	480
丸宗公園	810	御厨	477・692	源四郎大夫直	434・445・449
「万石割り」	802	御厨定	519	源二郎廻	480
「万葉集」	325	御厨氏	519	源順	425
賄い金	961	御厨四郎大夫直	427	源知	425
「丸田郷組」	1000	「御厨執行」	590	(前肥前介)	
		「御厨荘」	402	源太名	480
		御厨執行清	488	源高	427
		『御厨と在地領主』	435	(石志二郎)	
ミカドアゲハ	※219・220	「水のみ百姓」	841	(波多二郎)	
マイクロキスチス	126	水洗	※737	源巧	427
ミサゴ	133	水沢瀉	875	(波多大)	
ミジンコ	126	水城	335	源藤次持	448・473
ミズカマキリ	123・※125	水谷伊勢守	789	源融	426
ミズスマシ	123	水野和泉忠任	874	源登	452
ミソサザイ	146	『水野家文書』	899	源範頼	462
ミツユビカモメ	137	水野氏	878	源久	425・473・476・482・516
ミナ(ニナ)	120	水野忠鼎	896	(筒井源大夫)	
ミニ水力発電所(有浦発電所)	43	水野忠邦	945	(新太郎大夫)	
ミヤマガラス	※154・156	水野忠光	896	(松浦久)	
ミヤマハウシロ	152	水野忠之	946	源増	427
ミル	195・※197	道筋用捨引	※784	(石志三郎大夫)	
みどり園	68	満島山	34	源八並	427
三栗野源満	616	港川人	271	(荒久田)	
三島	40・47	南淵請安	355	源行家	482
三島神社	47・176	源詮	477	源義家	437
三(ツ)星紋	433	源致	427	源義親	437
三宅藤兵衛	785	(石志次郎)		源義経	462・482
未進	※782	源浮	425	源頼家	523・592
見留加志荘	402	源氏字久曾	475	源頼朝	409・467・470・482・537
弥勒知識寺	392	源聞	425	源頼光	95

フ	武家方	564	藤平ダム	48
	武家諸法度	742	藤原鎌足	329
	武家政治	466	仏教	326
フグ	部落	84	船底形石器	264
フジツボ	部落別人口表	*71	船釣り	227
フジナマコ	『風土記』	353	船問屋	1054
フタオビコヤガ	『深江文書』	497	船引き綱	236
フトヘナタリ	深鉢形土型	275・277	踏絵	799・990
フナ	福成寺	887	振売り	*868
フナムシ(アマメ)	藤浦姓	97	古市四郎右衛門	883
フノリ	藤島	40・46	古館姓	96
フビライ	藤田姓	98	文永(の役)	487
フランシスコ・ザビエル	藤経光	611	文銀	859・*862
フロイス	藤原家高	448	文禄の役	683
ブリ	藤原尋覚	448	分水界	36・42
ブランクトン	藤原純友	412	分米	*762
ふたば園	藤原隆家	424	覆勸状	497
不勝手	藤原忠文	412	奉行	1037
夫食	藤原忠舒	412		
夫高	藤原種時	442		
夫米	『藤原種時進状』	434		
夫役	藤原時平	409	ヘイケボタル	223
扶持米	藤原仲麻呂	390	ヘナタリ	114・*116
『芙蓉略記』	(惠美押勝)		ヘンリー・シーボルト	262
普恩寺	藤原秀郷	412	ベッコウザラ	*107・109
普恩寺(寺)	藤原広高	749	ベニシジミ	213・*215
普恩寺遺跡	藤原広嗣	345・383	ベラ	227
普恩寺古墳	藤原通高(直高)	448	ベンケイガニ	113
普恩寺新田干拓	藤原道高	448	部制	331
譜代たるべし	藤原頼永	615	部民	*327
譜代代名	藤平	15・62・69・95・1069	平安時代	395

平家	97・460	「保志賀」	498	細川勝元(東軍)	631
『平家物語』	461	哺乳動物	247	細川清	561
『平治物語』	459	母成峠	1007	細川頼之	562
平城天皇	393	『方丈記』	470	本貫地	634
平民	93	法蓮寺	930	本草	*990
北京原人	255・264	宝昌寺	69	本尊仏薬師如来	43・67・97
(シナントロプス・ペキネンシス)	568	傍例	568	『本朝通鑑』	502
遍照寺	68	戊辰戦争	1005	本道医	*840
		防所保	404	渤海	358
		防塁	497	捕鯨漁	926
		外津(村)	64・95・98	俸禄制	801
ホオアカ	150	外津浦	46		
ホウボウ	227	外津漁業協同組合	64		
ホオジロ	*149・150	外津漁港	47	マアジ	*229・*231
ホシザメ	228	外津橋	47	マイワシ	*233・*234
ホソバカナワラビ	188	外津湾	104・236	マガキ	113・*115
ホソバワダン	158	外園古墳	303	マガモ	*131・132
ホタル	124	北条貞時	515	マクサ(テングサ)	198・*199
ホトギス	139	北条貞義	534	マクリ(カイニンソウ)	198・*199
ホ乳類	209	北条随時	520	マグロ網	928
ホモ・サビエンス	248	北条高時	532	マス	235
ホヤ	110	北条高政	534	マダイ	229・*231
ホルトノキ	158・164・*166	北条為時	520	マダコ	117
ホンソメワケベラ	232	北条時宗	495	マツケムシ	225
ホンダワラ	106・194・201~202	北条時行	537	マツバガイ	*107・109
ホンベラ	232	北条英時	533	マテバシイ	158・*181
ボタンアオサ	195・*197	北条守時	532	マトウダイ	227
ボラ	227	『北肥戦誌』	500	マナヅル	134
『甫庵太閤記』	670・687	干鰯	1064	マハタ(タカバ)	230
保	*482	星鹿浦	498	マヒワ	153
『保元物語』	451	星賀浦	498		

波多源大夫照	591	廃藩置県	741	原田大夫種直	460
波多下野守源泰	615	白亜紀	250	原太郎納	427
波多壱岐守盛	636	白山火山帯	32	原太郎持	427
波多源三郎入道	473	白山神社	65	針摺原	573
波多源二郎高	427	白村江の戦	331	半塩水(汽水)	226
波多氏	554	「白石手筒」	262	判物	※804
波多氏系譜	598	白鳳時代	326	版籍奉還	741
波多二郎持	450	箕崎八幡宮	630	班給	※431
波多島源納	615	橋本俊季	537	班田	※396
波多下野守広	634	長谷川秀一	65	班田収授法	330
波多下野守興	634	(羽柴藤五郎)		伴天連	758
(畠好)		「榎実買ひ入れ座方」	959	番方	1036
(好)		秦田麻呂(秦間満)	380	番所	1045
波多下野守重	634	畑地	54	魑	※307
波多下野守治	634	畑ノ迫	61・67	『藩翰譜』	749
波多下野守鎮	634	畠山直顕	607	藩校	852
(三河守親)(藤童丸)		幡随院長兵衛	821	藩札	738
波多下野守武	634	八ッ田浦	40	藩政時代	93
波多城	429	八ッ田川(前田川)	42	薄葬令	300
波多広	18	八ッ田浦遺跡	※298	浜野浦村	705
波多又三郎至	635	八幡神社	69・※166	幕藩体制	741
波多源太巧	427	八幡船	621	幕府	742
波多領時代	85	『八幡愚童訓』	489	幕府領	791
波戸岬	34	花ノ木	60・66	剥片石器	256
葉山尻支石墓	296	花ノ木遺跡	266	幕領一揆(五ヶ山騒動)	978
馬場壇遺跡	264	「花の御所」	562		
馬場野ゴルフ場	45	浜野浦	60・65		
灰の浦新田	850	浜野浦川	42		
佩刀	876	原遺跡	266	ヒカゲワラビ	183
拝領高	792	原次郎高利	427	ヒキガエル	205
配石遺構	267	原城	786	ヒグラシ	223

ヒ

ヒザラガイ(クズマ)	109	日高入道宗任	97・710	引付座	520
ヒジキ	201	日高八郎	708	引付衆	※520
ヒトエグサ(アオサ)	195	日高大和守資	639	引米	※873
ヒバカリ	209	日奈田山	573	『曳山』	945
ヒバリ	※142・143	日の出溜	48	彦島河原	630
ヒメアカタテハ	214・※215	日の出松	60	常陸大掾国香	411
ヒメウ	129	日の出松遺跡	※265	『常陸風土記』	261・338
ヒメウラナミジャノメ	216	日の出松溜	48・67	『秀島文書』	980
ヒメクボガイ	110	日野資朝	529	秀の前(お安)	654・657
ヒヨドリ	144・※145	日野俊基	529	人高	813
ヒョノキ	167	『比志島文書』	522	百田洞穴遺跡	285
ヒライソガニ	110	水期	257	百人夫	783・※784
ヒラクチ	209	肥後国	8	『百練抄』	527・601・※602
ヒラタクワガタ	222	肥前鐘	※720	兵庫氏	479
「ヒラコさん」	477	肥前守源浮	425	評定衆	※520
ヒラマサ(ヒラス)	229	肥前守源聞	425	標高点	45
ヒラメ	227	『肥前旧事』	496	平尾	65
ヒルハルゼミ	223	肥前国	8	平尾溜	48
ヒレンジャク	144・※145	「肥前国産物絵図」	※931	平瀬	116
ビンズイ	143	『肥前陶磁考』	1069	平田姓	97
ひさご塚	303	『肥前風土記』	372	「平戸藩史考」	97
火国(火の国)	9	肥料	1056	平戸源義	616
日在城	450・639	卑弥呼	314	『平原庄屋文書』	816
日銭寸志	970	飛驒	※420	平山姓	97
日高甲斐守喜	639	飛沫帯(灌水帯)	194・195	敏達天皇	328
日高喜左衛門	97	備進	567・※568	褶振峯(鏡山)	345
日高喜助	889	東松浦郡	26	庇羅	374
日高氏	706	『東松浦郡史』	866・1003・1070	『丕揚録』	879
日高城	708	東松浦高校	68		
日高駿河守威	708	東松浦半島	※32		
日高姓	97	引き網漁	228		

道者	813・※814	ナベツル	134	長田代村	83
銅鏡	※303	ナマコ榊漁	926	流地	※842
特別養護老人ホーム玄海園	68	ナワシログミ	158	“流地禁止令”	842
徳川家重	866	名古屋氏	96	七ツ枝川	42
徳川家綱	811	『名古屋庄屋文書』	991	七二札(銭札)	1044
徳川家斉	898	名古屋次郎大夫授	429	鍋島直正	1006
徳川家光	792	名護屋浦	34	『鍋島直正公伝』	1006
徳川家康	751	名護屋城	667	鍋島信生(直茂)	650
『徳川実紀』	790	『名護屋文書』	787	『鍋島文書』	685
徳川綱吉	825	名和長年	531	生石	※991
徳川吉宗	843	奈良時代	325	生麦事件	994
徳永九郎左衛門	96	奈留兵衛二郎入道道仏	527	成毛	843・※845
徳永姓	96	納所	※782	縄手	※436
凸基鑑	281	菜畑遺跡	286	『南海通記』	※621
轟木(村)	61・69	内夫	※819	南方型文化	261
轟木溜	48	中尾基六	738	南北朝	529
富岡城	785	中大兄皇子	329	軟体動物	123・250
富田才治	894	中川内膳正	791	奴国	10・314
伴造	326	中島姓	95		
豊臣秀吉	7・667	中島孫二郎	546		
取毛	846・※847	中通	63・96		
鳥ノ巢遺跡	294	中臣鎌足	355	ニイニイゼミ	223
泥干潟	103	中野遺跡	287	ニカメイガ	225
烽	335	中野式部大夫義員	478	ニシキベラ	232
弩師	※415	中峰遺跡	264	ニジュウヤホシテントウムシ	225
		中村栄永	534	ニホンアカガエル	※206
		中山庄屋家	94	ニホンアマガエル	124・※126
		中山姓	94	ニホンザル	210
ナイフ型石器	261	「長尾日記」	434	ニホンシカ	212
ナガコンブ	196	長倉(村)	61・68	二本松大炊(義兼)	738・901~946
ナギラン	159・171	長崎警備	989	仁木義長	544~561

ナ

仁田野	70				
仁徳天皇	321				
仁徳陵古墳	301				
新田義貞	532~560	ネグロイド(黒色人種)	248	ハイタカ	133
贄(物)	※350	ネコザメ	228・※231	ハクセキレイ	143
贄人	401・※402	ネプトクワガタ	222	ハコネサンショウウオ	124
西唐津海底遺跡	285	「根木観音像」	325	ハシブトガラス	156
西姓	94	年貢	※742	ハシボソガラス	156
『西松浦郡史』	478	年功	844・※845	ハゼ	227
虹ノ松原	29			ハタ	227・230
虹ノ松原一揆	92・880			ハ虫類	207
日清	92			ハネケイソウ	126
日宋間貿易	716	ノウサギ	210	ハバノリ	196
『日本紀略』	420	ノギリクワガタ	222	ハマクチ	133
『日本後紀』	406	ノシラン	158	ハマグルマ	158
『日本三代実録』	261~262	ノジコ	152	ハマセンダン	159
『日本史』	668	ノビタキ	146・※147	ハマチ	236
『日本書紀』	13・251・316~376	『野上文書』	485	ハリガネムシ	225
日蓮	470	野崎姓	97	ハリケイソウ	126
『日蓮註画讃』	487	野田	84	ハルゼミ	223
日露	92	野田古墳	309	ハルニレ(ニレ)	169・※177
女房所	588	野高山	38・45	ハルノノゲシ	158
人別改め	799	野元川	33	バードレ	665
握斧	254	能古島	422	バクチノキ	169
		納所	※819	バツタ	223
		農業	1056	バフンウニ(コガゼ)	※108・109
		農具	1056	バリ	227
		農良浦	648	バン	134
奴婢	484	烽(狼煙)	345	はえ縄漁法	236
額田女王	333			土師器	306
拔地高引	※842			羽柴秀吉	663
布晒し	927				

ヌ





惣庄屋(制).....780	タヒバリ.....144	大宝律令.....330
惣代.....951	タブノキ.....163・※166	大砲鑄造.....1003
惣辻.....※800	タマガシラ.....228	大洋魚.....226
惣原古墳.....303	タマキビ.....106・※107	大良.....15
総追捕使.....482	タマゴコマユバチ.....225	大良道.....70
総領.....※479	タマゴバアリドオシ.....158	大領.....※415
造営祭祀.....301	タイサギ.....129・※130	太閤蔵入地.....731・747
底引き網.....236	タイズ.....225	太閤道.....1049
袖切川.....70	ダイナンギンポ.....232・※233	太政官布告.....93
杣人夫.....※850	ダイミョウセリ.....216・※217	『太平記』.....530・535・543・559
損田.....※910	「ダッチョ屋敷」.....709	「太平記多々良浜合戦」.....543
損毛.....844・※845	ダルマギク.....158	台場.....1045
『尊卑分脈』.....427	たたき石.....267	第一次産業.....78
座川(切木川).....43	田島神社.....305・395	第一次世界大戦.....92
座川内水田.....852	田嶋坐神社.....394	第二次世界大戦.....92
座川内.....62・70	田代.....62・70	醍醐天皇.....407
搔器.....254	田代やんぼし.....93	平教盛.....448・461
喪葬制.....307	田沼意次.....898	平清盛.....409
	田平源弘.....616	平貞盛.....412
	多久専称寺.....637	平忠盛.....448・461
	『多聞院日記』.....749	平政子.....439
	駄賃.....1050	平将門.....411
タイ.....47・229	「大化」.....330	高岩鼻.....40・※117
タイ網.....928	大化の改新.....329	高江城.....67・714
タカノハダイ.....228	大元.....495	高江山.....44
タカブシギ.....135・※136	『大宰管内誌』.....429	高丘親王.....416
タガメ.....124	大宰府.....358	(真如法親王)
タコ.....228	大歳神社.....65・167・174	高島.....33
タシギ.....137	大乘寺.....922	高祖城.....790
タチウオ.....228	大正.....85	『高祖遺文録』.....488
タナゴ.....227	『大武鑑』.....874	高塚式墳墓.....299
タヌキ.....211		

夕

高札(場).....824・1012・1046・1050	旦那寺.....796	「治国要領三件」.....1001
高向玄理.....355	淡水魚.....226・234	値賀.....19
高望王.....411	淡水草.....172	値賀伊勢守(長).....64
高役金.....963	暖地性植物.....158	(オタッコヨさま)
鷹島(五竜山).....503	壇之浦合戦.....462	値賀川内(村).....21・59・64
鷹島三郎満.....489	尊良親王.....533・538	値賀組.....21
鷹島六郎等.....489		値賀郷.....476
『鷹見文書』.....855・867		値賀崎.....46・※106
竹井城.....557		値賀氏.....19
竹木場.....45	チカラシバ.....168	値賀四郎唱.....427
『竹崎季長絵詞』.....509・521	チゴガニ.....113	『値賀史』.....19
竹ノ子島.....40	チゴケムシ.....109	値賀次郎(二郎広).....534
『武雄後藤文書』.....544	チスイビル.....126	値賀十郎.....19
立石.....70	チダイ.....228	値賀十郎連.....446
立石図書(立石主計頭).....648	チヌかご漁法.....236	値賀小学校.....64
『立川年代記』.....527	チヌかご.....228	値賀神社.....19
縦(竪)穴式住居.....248	チイロッパ.....240	(旧松尾・今岡権現)
帯刀.....93	チュウシヤクシギ.....135・※138	値賀中学校.....65
竪穴式石室.....312	チョウ.....212	値賀孫左衛門.....705
谷川.....41	ちかの里.....20	値賀村.....21・26
谷口古墳.....302・312	千種忠顕.....539	値賀弥七郎(式部大輔).....643
谷丸姓.....97	千葉胤泰.....569	値賀郵便局.....64
頼納質.....※914	千早城.....531	値賀与三健.....476
玉子島.....40	千代寿女.....585	値嘉嶋.....373
玉島川.....29	地球.....249	稚子岩.....543
溜池.....48	地下人.....※543	力石.....61・67
俵物.....※869・995	地祖改正.....1057	力石庄屋.....98
「俵物請方」.....995	地方知行.....801	力石姓.....98
俵物下請人.....995	地目.....58	畜養漁業.....235
「俵物役所」.....995	智月和尚.....894	筑後川の戦い.....575
反別谷別帳.....1042	知識無怨寺.....394	筑後守(肥後守)大江国兼.....438

チ



(熊丸太、塩津留定)	西光寺	660	主典	※413
佐志(荒久田六郎)馮	西遊日記	929	防人	366
佐志浄(拳)	采地	※811		
佐志勤	齐明天皇(皇極上皇)	331	シ	
佐志勤議状案	細石刃	256		
佐志寺田興三知	細石刃文化	256	シイ	158
佐志成	最高点	69	シジミ	123・124
佐志披	最勝光院	439	シジュウガラ	※149・150
佐志彦熊(隈)丸糺	『最勝光院領年貢散状』	439	シダ類	172・187
佐志万寿丸持	最深帯	194	シマアジ	229
佐志万寿丸学	最澄(伝教大師)	405	シマカンギク	171
佐志(四郎)拳	歳遣船	612	シマダイ	229
(浄覚)	坂の下遺跡	277	シマトビケラ	124
佐志源三郎留	栄	60・66	シマヘビ	208
(乙鶴)	『繪文書』	498	シメ	155
佐志源三郎披	先部	84	シャージャ(サザエ)	120
(松浦波多有浦源藏人披)	先部古墳	308	シャツパ	228
佐志源二郎勇	作事	※862	シュレーゲルアオガエル	206
佐志源二郎成	作使	※906	シライトゴカイ	117
佐志源次郎扇	作職	※757	シラウオ	234
佐志源次拳	作徳	※770	シラス	235
佐志六郎調	桜馬場遺跡	296	シルル紀	250
佐志六郎湛	追頭古墳	303	シロウオ	29・※233・234・235・922
佐代神社	三角点	45	シロエリオオハム	128
佐用姫神社	三角縁神獸鏡	302	シロサバフグ	234
沙汰人(職)	『三方領知替』	947	シロスジフジツボ	113・※114
沙弥通雄	三枚溜	48	シロダモ	158
嵯峨天皇	三葉虫	119	シロチドリ	135
座禪石	三稜尖頭器	255	シロハラ	148
西園寺公宗	参勤交代	810	シネズミ	211
西行法師	産業別人口構成	78	シパンダ	485

シムグリ	敷田遺跡	265	周章	※720
ジャコウアゲハ	敷田	84	修固役	512
ジャノヒゲ	直書	※945	集落	84
ジャワ原人	鎮方	※862	集落別名字数	98~102
ジュディス台風	質地	※842	宿駅	1050
ジュラ紀	渋川満直	630	諸国鄉村高帳	792
ジョウビタキ	渋川満頼	628	「諸国平均の法」	535
ジョル・ミルン	渋川義俊	630	諸色	※819
四至	島津氏久	583	諸藩	743
司馬広人	島田塚古墳	303	女真	421
仕置	島津討伐	663	除目	※420
仕法	島津義久	663	『小右記』	420・422
仕法役所	島原城	785	小動物	103
尻抱銭	下地	※480	少式景資	490・510
志佐浦元名	下直	※847	少式貞経(入道妙恵)	533
志佐小二郎祝	下場川	67	少式貞頼	629
志佐三郎兵衛繼	下場溜	48	少式資時	502
志佐源義	下宮	64	少式資元	632
志佐六郎貞	下村川	21・38	少式資能	496
(源六郎貞)	霜月事件	※521	少式資頼	527
「志道館」	車輪石	※300・※301	少式教頼	631・636
志礼川	「沙石集」	525	少式経資	486
施粥所	社寺林	173	少式冬資	583
「執行」	社倉	※873	少式冬尚	632
斯波氏経(左京大夫)	趣法方	※740	少式頼尚	534
獅子ヶ城	朱印状	※748	正中の変	529
地頭	種子拝借米	862	「生類憐みの令」	829
塩井川	聚楽第	666	庄崎五郎高	427
塩津留源経	樹園地	54	庄屋	※732・814
潮干狩り	樹木代	811	庄屋制	756
敷き網	宗門改め帳	990	昌平坂学問所	923

遣隋使	355・358・※362	コンブノリ	202	「五ヶ年限節儉仕法」	982
遣唐使	358・※362	ゴイスギ	129・※130	「五ヶ山騒動」	978・982
		ゴカイ	109	五軒組	985
		ゴチ	227	五社神社	47・66
		ゴマダラチョウ	216・※217	五人組	※799・815・985
コイ	235	ゴンズイ	227	「五人組帳前書」	815
コイカル	153	小加倉	67・84	後亀山天皇(熙成)	563
コウイカ	228	小加神社	67・163	『後漢書』	314
コウノトリ	132	『小賀倉村留帳』	971	後光厳天皇(弥仁)	561
コウボムギ	171	小 近	373	後白河法皇	439・452
コーカソイド(白色人種)	248	小西行長	679	後醍醐天皇	468
コオイムシ	126	小平瀬	46	後村上天皇(義良)	563
コオロギ	223	小振塚古墳	303	御家人	462・471
コガモ	132	小物成	830・1043	「御主意楮」	986
コキクガシラコウモリ	210	小山姓	96	「御主意楮植付方一件」	986
コクマルガラス	156	木場姓	97	御趣法	968
コクワガタ	222	『古河市史』	848	御朱印高帳	792
コケ類	172・188	古郷川	43	御用金	989
コゲラ	※140・143	『古今著聞集』	470	『御用帳抜書』	857
コサギ	129・※131	『古事記』	6・20・251	工 人	717
コサメビタキ	150	古生代	119・250	公地公民制	330
コシダカガンガラ	110	古 代	299	甲 虫	222
コジャンメ	216・※217	古力石村	83	甲頭溜	48
コジュケイ	134	古節木	84	広沢寺	※695
コノシロ	228	古 墳	299	『広沢寺文書』	695
コブダイ	228	古墳時代	84・299	巧 者	※901
コムスジ	214・※215	古墳文化	299・307	功 田	※396
コムクドリ	155	古墳埋葬法	308	弘安(元寇)の役	495
コムラサキ	216・※217	古物成	1043	弘法大師(空海)	404
コメツミムシ	225	戸数人数調べ	92	光厳天皇(量仁)	530
コレラ	1000	『鼓溪剖記』	478	光明天皇(豊仁)	546

交易所	968	国益方	※739・957	サトキマダラヒカゲ	218
交易船	726	国 衙	482	サバ	228
交 名	※522	国道204号	64	サホコカゲロウ	123・※125
孝謙天皇	390	黒色磨研土器	280	サメ	234
孝徳天皇(軽皇子)	331	黒曜石	267	サヨリ	228
庚申堂	180	穀 船	1054	サワガニ	124・※125
『虹浜騒秘録』	894	極瑞寺	66	サワラ	228
洪積世	247	越路姓	97	サンカメイガ	225
皇極上皇	331	越 夫	781・※782	サンショウクイ	144
『皇太神宮儀式帳』	435	骨角器	248	さくら園	64
神籠石	313	込み米	913	佐伯常人	385
神田五郎広	442・456	金剛川	70	佐賀銀行有浦支店	68
神田氏	520・555	金剛寺	560	佐賀県	17
神田宗次	456	金毘羅岳	981	佐賀県市町村別土地利用状況	55
紅藻類	193・196	金刀比羅神社	66	『佐賀県史』	1013
高句麗(高麗)	336・521・600	昆虫類	212	佐賀藩	979
『高城寺文書』	404	攷	※434	佐賀ミカン	54
高地性(戦闘的)集落	294	楮	1057	佐嘉庄	461
高伝寺	694	「楮植付仕法」	957	佐志仰	595
高師直	559	壑 田	※396	佐志祝(波多)	584
『高麗史』	600	健 児	※415	佐志黒二郎(某)	589
黄檗僧	823			佐志肥前介源知	422
『鉦山沿革調』	992			佐志氏	586
興福寺	70			佐志四郎来	586
鴻臚館	361・405・416			佐志四郎左衛門房	475・491
合 毛	※910	サイゴクイノデ	183	佐志二郎集	591
郷足軽	756	サケ	235	佐志二郎直	492・493
郷 組	757	サケ・マス文化圏	273	佐志次郎勤	427
郡(こおり)	341	ササノハベラ	230・※233	(久曾寿丸)	
石 高	85・753	サザエ(シャージャ)	110	佐志太郎撰	427
石 盛	※759	サシバ	134	佐志丹後二郎定	590

サ

菊地武光	561	享保(の改革)	843・※847	クマゼミ	223
菊池城	557	京極高次	65	クマネズミ	211
『岸田文書』	809・836	京泊	47	クマノコガイ	110・※115
岸岳城	450・※637・704・1069	切木川	29	クモヒトデ	109
『岸岳末孫の墓』	690	切木村	23	クリ	225
岸山村	991	切添	※819	クリタマバチ	225
北畠顕家	539	切手	※839	クロアゲハ	218
北畠顕能	560	切符(割符)	※964	クロキ	158
北畠親房	556	切米	※862	クロサギ	132
吉備	※307	伐柚賃米	※839	クロサバフグ(カナト)	234
吉備真備	390	近松寺	655・1008	クロダイ(チヌ・チン)	230・※231
吉利支丹	796	金印	※9・314	クロツケガイ	117
肝煎役	※808	欽明天皇	323	クロヒカゲ	216
九五金	968	棄捐	821	クロフジツボ	※116・117
九州探題	532・563・810	麾下	879	クロメジナ	230
『九州治乱記』	403・631	飢きん	847	グリーンタフ(凝灰岩)	250
『旧辞』	317	聞役	※811・840	九沙島藤源次郎	617
旧人	255			九沙島義永	616
旧石器時代	84・259			久里双水前後円墳	303
旧石器人	257			公家	97
旧石器文化	263			公麻田	※396
急度	※847			公事	※819
給人	※770			草高	※822
給米	838			草野貞永	528
牛馬	1057			草野次郎大輔(永平)	464
巨木	159			草野荘(菅野庄)	403・464
清原三子	449			草野鎮永	464
魚類	226			草野秀永	540
漁業	1059			串崎	34
漁業集落	64			楠田神社	※533
漁法	235			楠目文土器	275

ク

楠木正成	531	下司	※397	元弘の動乱	594
楠木正行	558	下地	※955	元寇(の役)	484
楠木正儀	560	解文	※372	『元史成宗本紀』	618
百濟	331	恵運	361	『元史日本伝』	499
口分田	348	「経誼館」	922	『元史列伝』	503
口米	※770	景行天皇	318	元和検地	85・731・758
国指定特別史跡	65	継体天皇	321	元和高	827
『国造本紀』	14	慶安御触書	※733・792	元文の改革	857
国造(制)	312・336	『慶安検地条目』	793	元明天皇	372
国司	330・339	『慶長絵図』	※767	「元禄時代」	841
熊野神社	67	慶長検地	703	玄海	25
汲田遺跡	295	『慶長年中肥前国絵図』	753	玄海型	53
組村制	779	慶長の役	697・750	玄海原子力発電所	46
蔵米	※771	警固番役	513	玄海国定公園	25
蔵米知行	801	結番	※498	玄海町	23
来目皇子	354	見任の介	※424	玄海町町花	24
黒田長政	668	券契	※821	玄海町町木	24
郡衙	344	建春門院	439	玄海町町民憲章	24
郡代	1037	建武の中興	468	玄海町福祉センター	47
狗奴国	295	県営干拓地	68	玄海町役場	68
		「儉約令」	841	玄海灘	25
		兼業農家	78	玄海郵便局	68
		剣持嘉兵衛	876	玄武岩	32・49
ケイソウ類	126	検地	1041	玄昉	389
ケヤキ	※166・168	検非違使	482	原始時代	247
ケヤリムシ	110	検見	1042	原始人類	247
ケラ	223	検見法	907	原始農業	282
ゲンゴロウ	124	「憲法十七条」	328	原人	253
ゲンジボタル	223	顕花植物	195	現石	1014・※1016
毛高	812	駿潮場	66	『源平盛衰記』	460
下克上	631	元	484	遣新羅使	358・379

ケ

かさ貝(カタキヤ)	109	鏡 莊	403	紙方役所	1064
かじけ	※814	鏡神社	※392	紙すき	929
かち	※814	鏡の渡	29・342	亀丘城	644
化石	119・247	『鏡廟宮本縁起』	391	亀ヶ岡式土器	262
加唐島	32・417	鏡山(摺振峯)	12・29・320	鴨打源永	615
加藤清正	667	垣 形	※473	鴨打源二集	481
加部良	62	掛 物	※955	鴨打氏	479
加部島(壁島)	12	掛 屋	※927	鴨打彦六増	541
加茂神社	432	囲 穀	963	粥	849
花 押	※804	笠置山	530	「辛津庄」	401
花崗岩	32・49・119	笠 咎	※724	唐 津	18
家居根山	※809	炊屋姫	328	唐津海士	928
賀周里	319	梶谷城	440	唐津石	70
嘉 靖	620	柏崎貝塚	295	唐津県	1013
蛾	224	片面礫器(チョッパー)	254	唐津市	27
雅 意	※724	涯 分	※720	『唐津市史』	894
靡(かい)	※1012	潟 川	33	『唐津拾風土記』	645
快 慶	470	潟引き網(地引き網)	236	唐津城	753
「改新の詔」	330	歩行山	※862	唐津神社	※457
貝 塚	248	勝海舟	1003	『唐津神社の縁起』	456
貝塚遺跡	273	葛 城	326	唐津署有浦警察官駐在所	68
廻 船	※1054	金井原	560	唐津署値賀警察官駐在所	64
廻 文	489	金ノ手	38	唐津茶屋	678
廻 米	※962	兼松弥五左衛門	789	唐津石工	96
海 岸	104	鎌倉幕府	470	唐津石炭	1068
海水魚	227	上村川	43	唐津知藩事	1011
海藻(草)	193	神埼荘	403	唐津藩	85・744
海賊禁止令(禁寇令)	665	神埼御荘	399	唐津藩士	1004
「海東諸国記」	15・603・※604	神集島(柏島)	32・320・416	「唐津藩時代別村高表」	86
害 虫	225	神屋宗湛	678・730	唐津藩主名	1016
『鏡郷組記録』	952・954	紙 方	992	唐津藩職制改革	1012

唐津柵	794	『勸農書』	824・982	キタテハ	218
唐津焼	718・924	勸農条例	733	キダイ	228
唐津領	823	『寛永七年高帳』	770	キチョウ	213
「唐津六町人」	856	「寛政異学の禁」	923	キツネ	211
刈萱城	498	寛政改革	738	キビナゴ	228
仮 立	59・63	『寛政巡見手鑑』	800	キマダラセセリ	216
仮 屋	60・66	「寛文印知」(集)	803・1059	キヤ(カイ)	120
仮屋浦	995	『関東御教書』	512	キュウシュウモグラ	209
仮屋簡易郵便局	66	観光漁業	66	キュウセン	232
仮屋漁業共同組合	66	岩 礁	104	キリギリス	223
仮屋小学校	66	水主役	807・※808	キリスト教	696
仮屋湾	47	水主役引	783	キレンジャク	144
狩野元信	670	褐藻類	196	キンクロハシロ	133
川崎五郎登	480	懐良親王	556	木内石亭	262
川添治兵衛	95	桓武天皇	393・408	木崎攸軒	738・925・※931
川副荘	399	キ		木下利房	65
川原浦	359	キアゲハ	218	木曾義伸	460
川 舟	1053	キアシシギ	135・※136	季節風	50
川 除	※1037	クイタダキ	148	起請文	※641
『河上宮古文書』	520	ククガシラコウモリ	210	『記 紀』	305・311
『河上神社文書』	401	クスズメ	117	「規定帳」	967
河尻九郎	546	ククタニギク	170・※177	亀 鏡	※541
河副荘	404	ククノハナガイ	109	基肆城(椽城)	335
瓦 器	307	キシ	134・※136	崎 門(きもん)派	※924
官 衙	431	キシハタ(アッコ)	230	魏	311
官 道	342	キシバト	※138・139	『魏志東夷伝』	305
冠位十二階	328	キシムシロ	158	魏志倭人伝	7・353
勘合貿易	600	キス	227	菊地高直	461
勘定方役人(普請役)	995	キセキレイ	※142・143	菊地武重	533
勘 文	※542			菊地武時	533
間水期	257			菊地武敏	540

オドリコソウ	158	大内教弘	631	大友具簡	534
オナガガモ	133	大内持世	630	大友貞載	538
オハグロベラ	232	大内義弘	563	大友貞宗(入道)	533
小笠原長昌	947	『大鏡』	420	大友宗麟(義鎮)	11・632
小笠原氏	739・947	大川内掃部助覚	433	『大友文書』	512
小笠原忠知	948	大川野淀姫神社	636	大友義統	685
小笠原長生	※1011	『大河内文書』	433	大友頼泰	485
小笠原長会	970	大河野四郎遊	445	大伴狭手彦	323
小笠原長国	982・985	大久保氏	794	大伴旅人	367
小笠原長行	※993	大久保忠常	795	大鳥	61・69
小笠原長泰	963	大久保忠朝	811	大鳥遺跡	284
小笠原長和	976	大久保忠職	795・809	大伴金村	323
小笠原胖之助	※1007	大串海岸	119	大野東人	384
小形常陸介	543	大串新田	39	大野莊	403
小川島	32	『大串新田庄屋文書』	1002	大橋遺跡	283
小川島貝塚遺跡	286	大串山	39・45	大平	43
小川総右衛門	672	「大櫛之岡」(大串貝塚)	261	大船越	※614
小川茂手木	895	大蔵種機	422	大保原の戦い	563
小江城攻防	569	大蔵種直	462	『大曲記』	621
小値賀島	445	大蔵春実	413	大政所	675
小田鎮光	655	大坂夏の陣	759	大近	373
小野維幹	412	大坂冬の陣	758	大村神社	※394
小野姓	96	大島小次郎聞	557	大森貝塚	262
小野好古	413	大島山	34	大山祇神社(大藪)	65
尾崎神社	70	大霜	42・62	大山祇神社(長倉)	69
御手山	992	大庄屋	876・886	大山祇神社(轟木)	69
「御触書」(慶安)	※733	大藪	60・65	大山祇神社(湯野尾)	70
御役部屋	1036	大鶴	47	大山祇神社(藤平)	70
緒方三郎惟義	460	大土井一揆(大渡り寄り)	739・950	大山祇神社(田代)	161・※162
織田信長	663	大友遺跡	297	応神天皇	320
負物	※724	大友氏時	574	応仁の乱	621

往還道	1049	鬼木姓	97	カナヘビ	208
往来	※819	鬼塚古墳	303	カニ	120
往来手形	819・1044	鬼塚古墳	310	カバマダラ	222
相知小太郎比	502	臣	329	カブトガニ	※118・119
相賀崎	34	表石高	1016	カブトムシ	222
相知医王寺	720	溺れ谷	34	カベチョロ	207
相知熊野神社	636			カマス	227
『相知系譜』	460			カミキリムシ	225
相知氏	479			カメノテ	109
相知治郎左衛門尉秀	560	カイガラムシ	225	カメムシ	225
相知莊	403	カイク	225	カモガイ	117
『相知町史』	894	カイグコ	119	カヤネズミ	210
相知蓮賀	534	カイツブリ	128	カラスアゲハ	218
相知妙音寺	636	カイドウチグサ	117	カラスガイ	124
相知村内面々相伝	544	カキ	116	カラスハト	139
「相知村内面々相伝系図」	544	カキブセ	120	カラスフグ	228
『相知文書』	560	カクベンケイガニ	※112・113	カラマツガイ	109
『相知由緒略録付録』	403	カケス	155	カリガネエガイ	113・※115
逢賀駅	12	カゴノキ	※166・167	カルガモ	132
近江毛野臣	322	カゴメノリ	196・※197	カレイ	227
近江令	330	カサゴ	230・※231	カワガラス	144
岡本山城守長繁	502	カササギ	※154・156	カワセミ	※140・141
岡役	805	カシラダカ	150・※151	カワトンボ	124
起婦り	※845	カシワ	※166・167	カワニナ	123・※125
奥清兵衛正命(奥春庵)	839	カシメ	194	カワハギ	232・※233
「納め櫛」	913	カスミサンショウウオ	※204	カワラヒワ	153・※154
押圧文土器	272	カタクチイワシ	234	カンパチ	229
押川遺跡	287・297	カチガラス	156	カンムリウミスズメ	139
押込	※982	カツオ	228	ガゼ	120
鬼ヶ城	640	カツオドリ	129	ガタンチョ(ガタ)	240
鬼木川	41	カッコウ	139	ガマガエル	205



「いわひろの尼讓状案」	483	一族一揆の法	595	岩戸山城	462
井堰	852	一同の法	596	岩盛山古墳	310
井手	※805	一ノ谷	462	岩森山	※487
井樋番引	783	一 遍	470	磐井の反乱	321
位 田 (いでん)	※396	一本釣り漁法	236	『印知集』	792
伊佐早荘	404	市丸藤兵衛	894	諱	424
伊集院忠国	556	壱岐	28・251	斑鳩	328
伊都国	314	『壱岐郷土史』	647	李舜臣	683
『伊藤庄屋家文書』	852	巖島神社	66		
伊藤祐久	852	巖島神社(安芸)	562		
伊万里県唐津出張所	729	稲	225		
『伊万里文書』	523	稲葉迂斎	853		
異国船	999	犬吠川	43		
鑄物師	927	犬吠峠	45		
生石遺跡	267	乾風	508		
生 口	※314	今岡権現	593		
池 崎	64	今川仲秋(頼泰)	581		
池田新田	852	今川義範	585		
池田姓	96	今川了俊(貞世)	580		
石垣山	549	今 村	21・59		
『石垣山注進状』	550	今村溜	48・65		
『石志文書』	426・435・541・548・594	芋	225		
石 田	60・65	入 鹿	329		
石田川	42	『入野庄屋文書』	989		
石田溜	48	入野半島(納所半島)	27・34		
石田三成	682	入百姓	※847		
石高山	45	煎海鼠	995		
磯立て網(かし網)	236	岩崎古城	715		
磯釣り	105・※106	岩下姓	96		
磯道遺跡	267	岩宿石器文化	263		
一色範氏(道猷)	565	岩戸合戦	521		

ウ

ウグイス	※147・148
ウシガエル	124・205
ウシノシタカレイ	228
ウズマキゴカイ	109
ウズラ	134
ウナギ	227・235
ウニ	117
ウノアシ	109・116
ウミウ	129・※130
ウミウシ	117
ウミウチワ	196・※197
ウミスズメ	137
ウミゾウメン	117・※118
ウミトラノオ	194
ウミネコ	137
ウラウズガイ	110・※111
ウラギンシジミ	214
ウラギンスジヒョウモン	218・219
ウラナシジミ	213・※215
ウルム氷期	257

ウルメイワシ	234	迂 儒	※924	『延喜式』	12・339
宇木汲田遺跡	295			猿 人	247・252
『宇佐大鏡』	403			沿岸沖合漁業	64・66
宇佐入幡社	※321			沿岸魚	226
宇野御厨	477	エ イ	234	宛陵寺(海晏山)	※428・444
宇野御厨檢校	425	エーグチワナ	208	『宛陵寺文書』	444
宇野御厨荘	401・445	エゴノリ	198		
鵜飼い漁	926	エドワード・モース	262		
上杉能憲	559	エナガ	150		
上田姓	97	エビ	124・228	オウムガイ	119
上場台地	4・54・259	エビアマモ	198・※199	オオイタヒカズラ	158
上場農協有浦支所	68	エビスガイ	110・※111	オオウキモ	196
上場農協値賀支所	64	穢多扶持米	806	オオコシダカガンガラ	110・※111
受付川	69	江頭川	33	オオシマヒメヒトデ	109・※111
後川内川	43	江戸時代	85・729	オオジュリン	152
後川内ダム	43・48	回向寺	823	オオセ	228
渦鞭毛藻類	198	恵日寺	625	オオセグロカモメ	137
打上ダム	48	永川成	※737	オオハム	128
馬 指	※1053	「永代売買禁止令」	841	オオバイワシ	237
馬のはまり(馬部)	387	『永録日記』	262	オオバコ	159
梅野新佐衛門	886	栄 西	※524	オオヘビガイ	110・※112
浦 方	735	盈科堂	852	オオミズナギドリ	128
浦 川	33	営 田	※431	オオムカデノリ	195
浦田川	69	駅	343	オオルリ	148
浦 分	1059	枝去木(村)	21・39	オカヒジキ	158
浦部島(中通島)	448	蛭子神社	66	オキシジミ	113・※115
浦 役	807	蝦 夷	355	オゴゼ	241
瓜ヶ坂	34	円 観	530	オゴノリ	195
運 慶	470	円 珍	361	オシドリ	※131・132
運上(金)	737・1037	炎色藻類	198	オジロワシ	133
『運上銀覚』	1054	延喜(醍醐朝)	529	オトメガサ	117

エ

オ

ア

アイナメ(アブラメ) ……110・230・※233	アサギマダラ ……220・※221	安閑天皇 ……323
アウストラロピテクス ……※253	アサリ ……120	安徳天皇 ……461
アオサ ……194・※200	アザミウマ ……225	安楽寺 ……※875
アオサギ ……132	アシマダラブユ ……124	足利尊氏 ……531
アオシ ……152	アジ ……227・241	足利直冬 ……564
アオスジアゲハ ……218・※219	アトリ ……※151・153	足利直義 ……559
アオダイショウ ……208	アナグマ ……211	足利幕府 ……11
アオノリ ……194・201・202	アビ ……128	足利満輔(満範) ……543
アオバズク ……※140・141	アブラコウモリ ……210	足利義詮 ……560
アオバト ……139	アブラゼミ ……223	足利義満 ……562・619
アオビッキ ……205	アブラムシ ……225	足軽番 ……805
アオモシ ……159	アマガイ ……113・※114	阿只拔都 ……611
アカエリヒレアシシギ ……137	アマガエル ……205	阿闍梨成尋 ……417
アカガエル(アカビキ) ……124	アマサギ ……129	阿高式土器 ……277
アカタテハ ……214	アマツバメ ……141	阿塔海 ……503
アカテガニ ……113・122	アマノリ(アサクサノリ) 196・※197・202	阿部比羅夫 ……355
アカトンボ ……222	アマモ ……※199・※200・202	阿部虫麻呂 ……385
アカハタ(アカハラ) ……230	アメフラシ ……117	阿弥陀如来座像 ……※660
アカハラ(鳥) ……146	アメリカザリガニ ……124	阿刺罕 ……503
アカハラ(動) ……205	アメンボ ……123	『吾妻鏡』 ……395・602・726
アカハラ(魚) ……230	アユ ……※233・235・241	会津若松 ……1007
アカヒトデ ……110	アラカシ ……158	相子田の停 ……359
アカビキ ……※206	アラカブ ……230	相沢忠洋 ……263
アカフジツボ ……110	アラメ ……194・※200・202	愛宕山 ……863
アキグミ ……158	アラレタマキビ ……105・※107・120	『青方文書』 ……445・513・595
アゲハチョウ ……218・※219	アワコガネグク ……169	青木姓 ……96
アコヤガイ ……121	アワビ ……117・121	青山采女正 ……638
アサガオガイ ……119	アンコウ ……228・241	“赤木農兵隊” ……1000
	あぐり網(二そう船引き) ……236	赤松満祐 ……631
	安宅舟 ……371	赤子間引き ……92
	安達泰盛 ……521	赤松海岸遺跡 ……286

赤水観音 ……325	有浦中学校 ……68	イシモンジチョウ ……214
明地 ……※845	有浦発電所 ……70	イスノキ ……165・※166・189
県主 ……312・338	有浦宗珊(正) ……676・※686	イセハナビ ……※177・179
浅木場 ……36	有浦文書 ……20・83・427・453・472・514・541・546・568・577・580・586・646・657・665・676・682・※686・698	イソゴカイ ……※108・109
浅胡遺跡 ……298		イソシギ ……135
浅野長政 ……665		イソニナ ……※108・109
麻生又兵衛 ……894		イソヒヨドリ ……146・※147
飛鳥時代 ……326	『有浦文書系譜』 ……590	イソヨコバサミ ……110
預所 ……※955	有毛検見 ……※907	イタチ ……212
預り札 ……960	有畝 ……※917	イタボガキ ……109
東歌 ……366	有馬義貞 ……638	イタボヤ ……109
圧痕土器 ……277	白水郎(あま) ……367	イタヤガイ網漁 ……228
天草四郎 ……※785		イチモンジセセリ ……225
天草島原の乱 ……784		イトトンボ ……222
海夫 ……498		イトマキヒトデ ……※108・109
海士役 ……※808	イカ ……228	イトミズ ……124・※125
網漁業 ……236	イカかご漁法 ……236	イトヨリ ……228
網代姓 ……97	イカかご ……228	イネゾウムシ ……225
荒木乗親 ……448	イカナゴ ……228	イネツトムシ ……225
新井白石 ……262	イカル ……153	イネヨトウ ……225
在原行平 ……374	イガイ ……109	イノデ ……188
有浦(村) ……21	イシカグマ ……175・※177	イボニシ ……※116
有浦上 ……60・67	イサキ ……227	イモリ ……124・205
有浦川 ……42・※104	イシガケチョウ ……220・※221	イラ ……228
有浦千拓 ……43	イシガニ ……110・※112	イルカ猟 ……928
『有浦系譜』 ……456	イシガメ ……207	イワガニ ……110
有浦氏 ……641	イシダタミ ……113・※115	イワシ ……234
有浦下 ……60・67	イシダイ ……228・※231	イワゼキショウ ……124
有浦小学校 ……68	イシゲ ……194	イワヒゲ ……194
有浦新田 ……※22・851	イシビル ……124・※126	イワフジツボ ……106・※107
有浦神社 ……67	イシマキガイ ……113・123	いわひろの尼 ……480

## 索引

- (注) ・語類の配列はアイウエオの順とし、それぞれの順は片仮名、平仮名、漢字の順とした。  
 ・漢字の語類は人名、地名など読みが難しいものもあるので、第一字の同字順とした。  
 ・※印は、写真、図版、注釈のあるページをしめした。

### 編集あとがき



町史上巻をやっと刊行することが出来ました。日高一男町長から、町政施行三十周年の記念日に間に合うようにと頼まれていましたが、非才の至すところ延び延びとなった次第です。

玄海町史編集に関しては十数年前、中山禮町議会議長から打診的な話を受けたことがありました。当時私は、新聞記者として、上場を駆け回っていた時でしたので、暇がなく、また町史作りという難作業をこなす自信もなかったのです。新聞社をやめて数年後、今度は越路英夫前町教育長の来訪を受けて、この話が再び出ましたが、一応返事を保留していたのです。

調べてみますとそのころ、県内では町村史を持たない町村はわずかであり、他の町村はどこも編集作業を進めている状態で、おそらく町史作りに着手していないのは玄海町だけだったのではないかと思われました。そこで私も積極的に取り組んでみようかと思ひ、私なりの構想で、地理、動植物などの自然誌も含めた町史を作ってみようと考えたのでした。

町史発行要綱、目次作り、それぞれの分野の執筆協力者の内交渉も進め、見通しがついたので、約一年後の昭和五十七年十二月、第一回の町史編集委員会を開いてもらい、了解を受けて、翌年一月から編集作業に入った次第でした。自然誌関係は専門の現職教師（みな各学会会員）に、歴史関係は私より先達であり各方面に執筆歴豊富な知人と執筆を依頼、身近な町史が出来ることを念願した次第でした。

町史を作るためには、史料の収集が絶対に必要な作業です。時間的には八〇%以上がこれにかかるといわれています。玄海町史に關係ありそうな手近な文献としては、有浦文書、石志文書、班島文書、松浦叢書、東松浦郡史、松浦史、松尾庄屋文書、大串新田伊藤庄屋文書、世戸庄屋文書、岸田文書、鷹見文書、唐津市史、北波多村史、巖木町史、相知町史、七山村史、呼子町史、鎮西町史、末盧国、松浦党祖考などがあり、町内文献としては、平尾文書、普恩寺文書、大藪文書、藤田庄屋文書と値賀史などがあるが、いずれも史料とするには關係事項が少なく、従つて、文献的には遠い史料の探求も絶対必要。加えて町民の身近な町史とするためには、さらに町内の旧家、有識者を尋ね、また路傍、山間を探すなど埋もれた史料も収集して、文献の不足を補う必要もあると考え、私なりに集落調査も進めていったのでした。

『有浦文書』は「有浦」の名がついているが、これは有浦氏の家伝の文書という意味で、ほとんどは中世から近世初頭の武士間に往来された書簡、各種文書。玄海町に直接關係ありそうなものは、わずかしか出ていないために一部の人がいうように、これだけでは町史の支柱にはなり得ないのです。

集落調査は徹底を期して、老人会の人たちの協力を受けて進めていきましたが、日数が経過するばかり。旧切木、有浦村区域を済ませ、旧値賀村区域は石田をあらかた済ませた六十年秋ごろか、日高町長から、上巻だけでもすぐにと熱望されたのでした。そのため残りの集落からの中、近世史料調査は、見送らざるを得なくなつたのです。もちろん、それまでに発見した史料は、この上巻の中に記述しています。下巻（近代、現代史）では、残りの集落の調査も終えて、中、近世史的史料も加えた集落史も記述したいと考えられています。

東松浦半島の西岸に位置する玄海町は、古代から中世、近世にかけての歴史の流れの中では、言葉を変えていますと、末流のその末流の一つ的な存在としかいえません。とにかく現れてくる史料が少ないのです。従つて

古代、中世史は、全国的な歴史の中の肥前国・松浦史、その流れの中の玄海町史というようなとらえ方、しぼり込み式の記述にならざるを得なかつたようです。近世史でも、唐津藩史の中の玄海町史のようになるほかなかつたようです。そのため見方によっては、自然誌を含めて、この町史上巻は、第二の東松浦郡史的存在、玄海町史という概念を少し離れた感じを受取るかもしれないと思います。執筆者にはたいへんご苦勞をかけたと思つています。

町史とは町民のための身近な史書。町民が「ふるさと」の心を読む本だとも認識しています。さらに町史は、日高町長が発刊のごあいさつでも述べられているように「先祖の残された足跡」を見つめ、「わが町発展のため」に活用するうえからも、仮りに町内の記述が少ないとしても、良い資料として役立つところがあるかと思つています。

そうして町史は史書であるからには、あくまでも史実、史料に基つた記述でなければならぬと思つています。しかし、それを追求するあまり、学究的記述にもなりやすいのです。また堅い表現にもなりやすいのです。私は老人が孫相手に、寝物語りに話すやわらかい読み物にしたいと考えていました。そのために漢字の字體、字体、音訓、語例などは常用漢字表を基本にしましたが、記述内容の一部には、史料の文をそのまま活用されているところも多いために、かなり堅苦しく感じるところもあるようです。急がれるあまり、やむを得なかつたとも思っています。将来さらに史料の収集その他を研究されて、より良い町史が生まれることを願っています。

この上巻作りに際しては、雑音もありました。町政施行三十周年記念事業という町長、議長かたがたの熱意にふるいたたされて、とにかく完成にこぎつけることが出来た次第です。

町村史という本は見方によつては、その町村の文化的「顔」といつてもよいかと思います。収録された内容の

程度やその本の体裁などからみて、その町村にふさわしいものかと考える必要もあると思います。

玄海町は現在では、県内唯一の自主財源だけで運営されている豊かな自治体です。役場庁舎、議事堂、学校などの施設はすばらしく近代化されています。さらに社会体育館、町民会館などが建築される計画にあるといいますが、このような玄海町にこの町史上巻が、果してふさわしいものであるかと少々おそれているしだいでもあります。

なお、町民の皆さんが期待しておられたと思う各集落史のことは、前述のこともあり、下巻に譲ることに致しました。

この上巻発刊については日高町長、中山議長、越路前教育長、はじめ松本教育長、役場職員の皆さん、それに町民の皆さんにもご協力を受けました。また執筆をお願いした皆さんにも大変ご協力を受けました。ともに厚くお礼申し上げます。

昭和六十三年十二月吉日

玄海町史主任編集員 山口賢実

### 玄海町史上巻執筆協力者

わが町の自然(地理誌) 久我 有策

わが町の動植物誌

植物 川波 誠

鳥 福田 司

水生小動物 丹野 譲

陸上小動物 吉田 喜美明

原始史、古代史 堀川 義英

古代史、中世史 富岡 行昌

近世史 坂本 智生

右以外の執筆と各原稿の

整理、校閲、校正など 山口 賢実

玄海町史編集委員会

- |       |             |       |
|-------|-------------|-------|
| 委員長   | 玄海町長        | 日高一男  |
| 委員    | 町議会議長       | 中山 穰  |
| 同     | 町議会副議長      | 鶴田留蔵  |
| 同     | 学識経験者       | 山崎定男  |
| 同     | 町教育委員長      | 金子世児  |
| 同     | 前町教育委員長     | 寺田吉之助 |
| 主任編集員 | 学識経験者<br>住職 | 做池田玉樹 |
| 編集補助  |             | 山口賢実  |
|       |             | 寺田信子  |

玄海町史編集事務局

- |        |      |
|--------|------|
| 前教育長   | 越路英夫 |
| 教育長    | 松本嘉裕 |
| 社会教育係長 | 脇山奉文 |
| 公民館主事  | 古館保弘 |

玄海町史 上卷

発行 昭和六十三年十二月

編集 玄海町史編集委員会

発行 佐賀県玄海町教育委員会

佐賀県東松浦郡玄海町

大字諸浦三四八

☎〇九五五―五二二―一一一

印刷

凸版印刷株式会社西日本事業部  
福岡市中央区薬院一―七七―二八